各務原市新庁舎建設基本計画 (案)

平成28年3月 各務原市

各務原市新庁舎建設基本計画 (案)

目 次

1.	新庁舎建設の必要	性	•		•	 •	 		•	•	•	•	•	1
2.	新庁舎の建設場所	÷ •			•	 •	 		•	-	•	•	•	4
3.	新庁舎の規模・				•	 = 1	 		•	•	-	•	•	1 2
4.	新庁舎の機能・	• •			•	 - 1	 		•	•	•	•	•	2 0
5.	事業手法等・・	• •			•	 = 1	 		•	•	•	•	•	3 3
6.	整備スケジュール				•	 •			•	•	-	•		3 6
7.	財政計画・・・・				•	 •	 	•	•		-	•	•	3 7
8.	事業にあたっての	留意	事項	Į.	•	 •	 • .		•	•	-	•		4 0
4	李													

1. 新庁舎建設の必要性

(1) 各務原市総合計画(上位関連計画)

近年、自治体を取り巻く環境は、都市部への人口集中や人々の社会経済活動等の広域化、 東日本大震災の発生を契機とした防災意識の高まり、国と地方、県と市町村の役割の抜本 的な見直しなど、大きく変化しています。さらに、市民の意識や価値観、地域の課題など も複雑化、多様化してきました。

このような情勢の中、環境変化に対応したまちづくりを進めていくためには、本市の現 状、課題や目指す姿を共有し、市民や地域、企業、行政がそれぞれの役割を担いながら、 取り組みを進めていくことが大切になります。

本市では、時代、社会の潮流を的確にとらえ、本市が目指す姿と進むべき道筋を明らかにするための指針として、平成27年度を初年度とする新たな総合計画を策定しました。 総合計画は「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」により構成され、基本構想において、 下図のとおり、本市の将来都市像とまちづくりの基本理念を掲げています。



図表 1-1 各務原市総合計画における将来都市像と3つの基本理念

また、「誇り〜新しい人づくり・地域づくり〜」、「やさしさ〜新しい安心づくり〜」、「活力〜新しい元気づくり〜」の3つ基本理念につながるまちの姿として、9つの基本目標を掲げ、それらに基づき基本計画において施策を展開していきます。

「やさしさ〜新しい安心づくり〜」では、「基本目標6:いつまでも住み続けたい安全・安心のまち(防災・防犯)」を掲げ、「地域の身近な場所で、安全・安心を支える消防団や自主防災組織などの防災ボランティア団体の活動を支援するとともに、災害時の拠点施設となる公共施設の耐震化、市民への一層の防災意識の啓発などにより、地域防災対策の強化に努める」こととしています。また、その基本計画における施策の方向性として、「耐震

0.41

化の推進」があり、「災害による被害を軽減するため、市内建物の耐震化を支援するととも に、災害復旧や救助活動の拠点となる公共施設の耐震化を進める」こととしています。

(2) 本庁舎の耐震性及び抱える課題

本庁舎(昭和48年3月竣工)は、旧耐震基準(昭和56年以前)で設計された建物です。平成25年度に実施した耐震診断では、耐震性が低く、「大規模地震発生時に倒壊又は崩壊の危険性が高い」という結果となっています。

また、耐震性の問題に加え、設備の老朽化、狭あい化、バリアフリー等多くの課題を抱えています。

	1 77 E T IN 12 CH2 ET IN EP IN						
	長辺東	西方向	短辺南北方向				
	Is値	CTU・SD値	Is値	CTU・SD値			
6階	0. 50	0. 51	0. 63	0. 64			
5階	0. 65	0. 66	0. 52	0. 53			
4階	0. 41	0. 41	0. 46	0. 47			
3階	0. 40	0. 40	0. 40	0. 40			
2階	0. 37	0. 37	0. 37	0. 37			
1階	0. 34	0. 34	0. 28	0. 29			

図表 1-2 本庁舎の耐震診断結果

※ I s 値:建築物の地震に対する安全性を示す指標。耐震改修促進法で必要としている建築物の耐震性能は I s 値 0. 6以上です。本庁舎は、すべての階で 0. 6を下回っており、1階では最小値の 0. 28となっています。

0.40

0.45

- ※CTU・SD値:鉄筋コンクリート造が主な構造の建物が持っている、地震による水平方向の力に対する強さ。Is値が0.6を上回っても、CTU・SD値が0.3未満の場合は倒壊の危険性があるとされます。
- ※赤字の数値が、基準値を下回る数値

0.44

地下

図表 1-3 本庁舎の抱える主な課題

項目	課題
	耐震性の不足、非常時の設備不足、防犯性の欠如
安全性	・耐震性が低いことで、震災時に建物の崩壊等の物理的な危険だけでなく、復
	旧のための活動の支援機能が低下するおそれがあります。
	庁舎の分散化及び狭あい化、会議室の不足、プライバシーの欠如、ユニバーサ
	ルデザイン対応の不十分
	・市役所の事務量の増加により、会議室や打合せスペース、相談スペースが不
機能性	足しています。
	・プライバシーが十分に確保できていません。
	・多目的トイレが 1 階の一箇所のみとなっているなど、全ての人にとって使い
	やすい庁舎とはいえません。

	建物、設備の老朽化
経済性	・老朽化が進んでいることから、今後も必要に応じて設備や機器等の更新、改
	修をしていかなければなりません。
	自然エネルギー活用や省エネによる環境負荷低減への未対応
環境保全性	・熱効率のよい窓ガラスや外壁などの導入や太陽光発電システムなどの自然エ
	ネルギーの利活用による環境負荷低減への対応がされていません。

(3) 新庁舎建設の必要性

本庁舎耐震化の整備方法は、「各務原市本庁舎耐震化基本構想」(平成27年3月策定。 以下「基本構想」という。)において、①耐震補強、②免震補強、③建替え、④本庁舎耐震 補強及び防災拠点庁舎新築の各整備内容、本庁舎の抱える課題や問題点、コスト(初期費 用、ライフサイクルコスト)について比較・検討を行い、「建替え」による整備としていま す。

南海トラフ巨大地震がいつ発生しても不思議ではない中で、市民サービス、防災の拠点 となる新庁舎の建設は喫緊の課題であり、早期の完成に向けて事業を進める必要がありま す。

(4) 新庁舎建設基本計画の位置付け

「各務原市新庁舎建設基本計画」(以下「基本計画」という。)は、基本構想を踏まえて、 新庁舎の建設場所、規模、導入機能、事業手法、整備スケジュール、財政計画等、新庁舎 建設の整備方針をまとめ、今後の設計を進める際の指針として策定するものです。

2. 新庁舎の建設場所

(1) 新庁舎の建設候補地

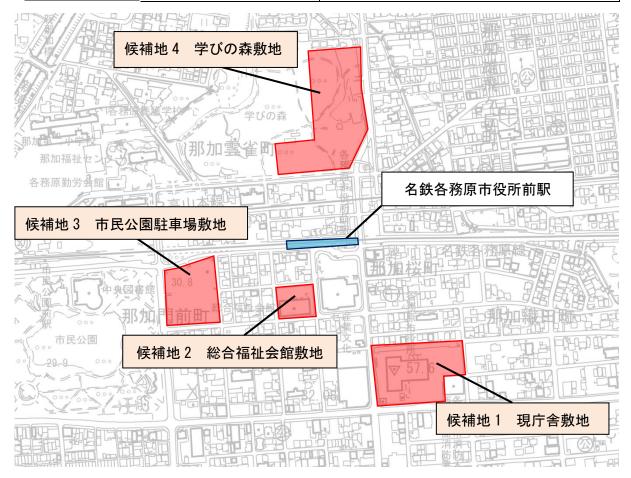
基本構想では、新庁舎の建設エリアとして「現庁舎周辺エリア」を選定しています。

現庁舎周辺エリアは、名鉄各務原市役所前駅の徒歩圏内で、周辺の1キロ圏域で、人口が市全体の9%、商業販売額が市全体の15%をカバーしているなど都市機能が集約(平成22年国勢調査、平成19年経済センサスに基づく分布より)されているとともに、周辺に消防本部、中央図書館、航空自衛隊岐阜基地、岐阜保健所、各務原郵便局、商工会議所などの公共公益施設等が集積されており、市の中心的なエリアが形成されています。

新庁舎の建設場所については、現庁舎エリア内で、市有地で、ある程度の広さを確保できる下記の4つの候補地を挙げ、それぞれの敷地及び周辺の現況、新庁舎建設に関する考察を示します。

図表 2-1	建設候補地位置図
--------	----------

候補地	名称	所在地
候補地1	現庁舎敷地	各務原市那加桜町1丁目69番地
候補地 2	総合福祉会館敷地	各務原市那加桜町2丁目163番地
候補地3	市民公園駐車場敷地	各務原市那加門前町3丁目2番地4
候補地 4	学びの森敷地	各務原市那加雲雀町 10 番地 1 ほか



図表 2-2-1 建設候補地の敷地及び周辺の状況 (①現庁舎敷地・②総合福祉会館敷地)

凶表 2-2-1 ;	建設候補地の敷地及	ひ周辺の	り状況(①現庁告	敷地	• ②総合偏征会即	默地)		
候補地		見庁舎敷	 地		②総合福祉	业会館	 I敷地		
付近位置図									
敷地面積	1	2, 737 m ²			3, 23	39 m²			
用途地域	商業地域 (建蔽率:80%、3	字積率:4	00%)		種住居地域 :蔽率:60%、容積:	率:20	00%)		
高さ制限 斜線制限	道路斜線:勾配 1.5 適用距離 20m 隣地斜線:勾配 2.5 立上がり 31m 航空法:28~35m程度 日影:規制なし 景観計画:規制なし			道路斜線: 勾配 1. 25 適用距離 20m 隣地斜線: 勾配 1. 25 立上がり 20m 航空法: 52m程度 日影: 5/3 時間 景観計画: 20m以下					
最寄の 交通機関	名鉄各務原市役所[ή駅から領 	量歩3分	名鉄各務原市役所前駅から徒歩2分					
隣地の状況	東側 道路 6.0m 南道路 17.2m 側(歩道付き)	西側北側	道路 13.7m (歩道付き) 住宅	東側南側	道路 10.4m 道路 7.0m (歩道付き)	西側北側	道路 5.5m 道路 5.8m		
敷地の状況	・約50年、市役所の場所として、市民に認知されている。 ・東西、南北のメインストリート沿い、駅から直線の所に位置し、視認性が良い。 ・国道21号からのアクセスが良い。 ・「商業地域」で、店舗や事務所(庁舎を含む)等の建設ができる。 ・航空自衛隊岐阜基地から近いため、航空法による高さ制限が比較的厳しい範囲内にある。			や集会施設として、多くの市民に利用され、 認知されている。 ・ 敷地内の公共駐車場 (38 台分) は、当該施設や産業文化センター利用者で日常的に満車となることが多い。 ・ メインストリートからの視認性が悪い。 ・ 「第1種住居地域」で、建築規制があり、延					
周辺の状況	 消防本部、店舗、金融機関、住宅が立地している。 国道 21 号沿いにも店舗、事務所が立地している。 周囲の電線が地中化され、庁舎を含めた都市機能が形成されている。 第二次緊急輸送道路と接続している。 				鉄各務原市役所前! 庁舎(産業文化セン い幅員や一方通行 まれている。	/ター)	と隣接している。		

図表 2-2-2 建設候補地の敷地及び周辺の状況(③市民公園駐車場敷地・④学びの森敷地)

凶表 2-2-2	建設候補地の敷地及び	「周辺の状況(③市民会	公园社.	単場敷地・4学(が分級	<u> </u>		
候補地	③市民公園	園駐車場敷地		④学びの森敷地				
付近位置図		COLUMN TO THE PARTY OF THE PART						
敷地面積	約 9,	000 m ²		約 24,	000 m	اُ		
用途地域	第1種住居地域 (建蔽率:60%、容積	[率:200%)		種中高層住居専用 養蔽率:60%、容積		00%)		
高さ制限 斜線制限	道路斜線:勾配 1. 25 克 隣地斜線:勾配 1. 25 克 航空法:53m程度 日影:5/3 時間 景観計画:20m以下	道路斜線: 勾配 1. 25 適用距離 20m 隣地斜線: 勾配 1. 25 立上がり 20m 航空法: 54m程度 日影: 4/2. 5 時間 景観計画: 20m以下						
最寄の 交通機関	名鉄市民公園前駅から 	徒歩3分	名鈞	名鉄各務原市役所前駅から徒歩3分				
隣地の状況	東側 道路 5.4m 南道路 8.8m 側 (歩道付き)	西 道路 11.0m 側 (歩道付き) 北 道路 8.5m 側 (歩道付き)	東側南側	道路 15.8m (歩道付き) 道路 7.1m	西側北側	学びの森敷地内 学びの森敷地内		
敷地の状況	公共駐車場(340台会社会館、市民公園や成まつり等市民公園や成まつり等市民は常時満車となる。 メインストリートが 「第1種住居地域」 床面積3,000 ㎡までは建設できる。	の会敷び用メり「制設き学	民憩 デ地のがイ、第がでなび場別がイの利るス認種りる。な当人と賞駐で、おいの新るス認種りる。なりのが、とは、では、では、が、一良層床事が指で、一良層床事が指で、一良層床事が指で、一度層床事が指で、一度層床事が指で、一度層にある。をは、ののののが、のののののが、のののののが、のののののができます。	れて (150 ·	る(2008年土木学 賞)。 台分)は、主に学り270台程度の利 から直線の所にあ 域」では、建築はまでの店は建設で を含む)は建設で 包蔵地(岐阜大学			
周辺の状況	• 市民公園、狭い幅員 ⁴ 住宅街に囲まれてい	• 基 显	場跡地がに相定され 牧地東側の道路の一 各に指定されている 狭い幅員の市道が通 る。 沓切との距離が近く 生しやすい。	-部が う。 通る住 ⁵	第三次緊急輸送道 宅街に囲まれてい			

(2) 各敷地の新庁舎建設に関する考察

図表 2-3-1 各敷地の新庁舎建設に関する考察(①現庁舎敷地)

検補地 現庁舎の東側駐車場に 現庁舎の南側駐車場に 建設する場合 現庁舎位置に建設する場合 現庁舎の「開駐車場に 建設する場合 現防本部が同一数地にあるため、災害発生時に必要となる消防本部との災害情報の「機能性 第一次緊急輸送道路の国道 21 号が近く、南側道路が第二次緊急輸送道路に指定されまり、災害時のアクセスの容易性が確保される 災害活動のための敷地の確保は、ある程度可能である 東西、南北それぞれに斡線道路があり、自動車による 現在の駐車場入口位置では、南側道路に入場待ちの自動車が滞留してしまうことが、		2 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	利川古姓政に関する方景(
け近位置図		/군·>±↓		①現庁舎敷地 						
防災性 過去に災害はなく、ハザードマップによれば浸水害や土砂災害は想定されていない 消防本部が同一敷地にあるため、災害発生時に必要となる消防本部との災害情報の:確な共有化や人員派遣等の連携が容易に行うことができる 第一次緊急輸送道路の国道 21 号が近く、南側道路が第二次緊急輸送道路に指定されおり、災害時のアクセスの容易性が確保される 災害時のアクセスの容易性が確保される 現在の駐車場入口位置では、南側道路に入場待ちの自動車が滞留してしまうことが、		医補地 								
できる で		付近位置図								
確な共有化や人員派遣等の連携が容易に行うことができる 第一次緊急輸送道路の国道 21 号が近く、南側道路が第二次緊急輸送道路に指定されまり、災害活動のための敷地の確保は、ある程度可能である 東西、南北それぞれに幹線道路があり、自動車によるアクセスが容易である現在の駐車場入口位置では、南側道路に入場待ちの自動車が滞留してしまうことが、現在の駐車場入口位置では、南側道路に入場待ちの自動車が滞留してしまうことが、現代と同程度の駐車台数の駐車場整備が可能である 工事期間中、東方者駐車場が不足する エ事期間中、来方者駐車場が不足する エ事期間中、来方者駐車場が不足する 大行して現庁舎を一部解性が低下する で設庁舎が利用しにくくなる「会が利用しにくくなる」「完舎が利用しにくくなる」「庁舎移転1回と、先行して限庁舎をどに分散し、利性が低下する」「庁舎移転1回と、先行して保険するおかの移転が必要である」「庁舎移転1回と、先行して保険する部分の移転が必要である」「庁舎移転が1回と、先行して関連のできが必要である」「庁舎移転が1回と、先行して保険できが必要である」「庁舎移転が1回と、先行して保険であるの多数における入場待ち自動車の滞留解消のため、東側道路の拡幅が考えられる関連となるを表した配置がある程度可能であるが、建設は可能であるが、建設は可能であるが、建設は可能であるが、建設は可能であるが、関連の記憶となるが、周辺への影響は小さい を表した配置がある程度可能である 大行して保体する分、工事期間が短く、周辺への影響は小さい を表した配置がある程度可能である 大行して保体する分、工事期間が長くなるが、周辺への影響は小さい を表した配置がある程度可能である 大行して保体する分、工事期間が長くなるが、周辺への影響は小さい を表したの影響は小さい を表したの影響は小さい を表したの記憶が可能である ことが期待できる 日舎地域の変更が必要なく現状のままで建設が可能であるが、動地水側住足の生活では表した。 ことが期待できる 日舎地域の変更が必要すが必要すで建設が可能であるが、動地水側住足の生活を対していますで建設が可能であるが、 動地水側住足の生活を対していますで建設が可能であるが、 動地水側を足ののままで建設が可能であるが、 動地水側を足の生活を対していますで建設が可能である 日舎地域の変更が必要する。 単版は、本記は、表には、表には、表には、表には、表には、表には、表には、表には、表には、表に		防災性	過去に災害はなく、ハザー	ドマップによれば浸水害や土研	少災害は想定されていない					
## できない。 第一次緊急輸送道路の国道 21 号が近く、南側道路が第二次緊急輸送道路に指定されおり、災害時のアクセスの容易性が確保される 災害活動のための敷地の確保は、ある程度可能である 東西、南北それぞれに幹線道路があり、自動車によるアクセスが容易である 現在の駐車場入口位置では、南側道路に入場待ちの自動車が滞留してしまうことが、		※宝味の								
大田・					欠緊急輸送道路に指定されて					
機能性 工事期間中の 利便性 工事期間中の 利便性 工事期間中の 利便性 工事期間中の 利便性 工事期間中の 利便性 工事期間中の 大行して現庁舎を一部解 体するため、工事期間中庁舎機能が何能である 工事期間中現庁舎が利用しにくくなる 仮設庁舎 仮設庁舎は必要ない 仮設庁舎は必要ない 庁舎移転1回と、先行して 庁舎移転1回と、先行して 解体する部分の移転が必 要となる インフラ整備 の必要性 更新性・拡張性 東新性・拡張性 東新性・拡張性 環境 環境 保 全 会 開題のの配慮 周囲との景観的な調和は現状と大きく変わらない 周囲との景観的な調和は現状と大きく変わらない 地域における 貢献性 和域における 青蔵性 和が50年、市役所の場所として市民に認知されており、引き続きまちづくりの中心とに ることが期待できる 田途地域の変更が必要なく現状のままで建設が可能であるが、動地が側住民の生活 を のと のと のと のと のと のと のと のと のと			災害活動のための敷地の確保	呆は、ある程度可能である						
機能性 工事期間中の 利便性 工事期間中の 利便性 工事期間中現庁舎が利用 しにくくなる 仮設庁舎 仮設庁舎 仮設庁舎は必要ない			現在の駐車場入口位置では、							
エ事期間中、来庁者駐車場が不足する エ事期間中の 利便性 エ事期間中現庁舎が利用 しにくくなる 「たきが利用しにくくなる 「たきが利用しにくくなる 「たきが利用しにくくなる 「たき移転 「たき移転は1回で済む 「たき移転1回と、先行して 「保する部分の移転が必要である 「たき移転は1回で済む 「たき移転が2回必要となる 要となる 「おりがあるが、建設は可能である 「地域における人場待ち自動車の滞留解消のため、東側道路の拡幅が考えられる 物があるが、建設は可能である 「地域における 、影響は小さい 」 「を持ているい。 「を持ているの影響は小さい 」 「を持ているの影響は小さい 」 「を持ているの影響は小さい 」 「を持ているの影響は小さい 」 「おりの中心とに表して、 」 」 「を持ているの。 」 「を持ているの。 」 」 「を持ているの、 」 」 」 「を持ているの影響は小さい 」 「を持ているの。 」 」 「を持ているの。 」 」 「を持ているの。 」 」 」 「を持ているの。 」 」 」 「を持ているの。 」 」 」 」 」 「を持ているの。 」 」 」 」 」 」			現状と同程度の駐車台数の馬	現状と同程度の駐車台数の駐車場整備が可能である						
大力 では、		- 吉畑明士の	工事期間中、来庁者駐車場点	が不足する						
「大き移転 「「大き移転 「大き移転 「大き移転 「大き移転 「大き移転 「大き移転 「大き移転 「大き移転 「「大き移転 「大き移転 「大きを移す 「大きを移す 「大きをが 「大きをが				体するため、工事期間中現	工事期間中庁舎機能が仮 設庁舎などに分散し、利便 性が低下する					
庁舎移転 庁舎移転は1回で済む 解体する部分の移転が必 庁舎移転が2回必要となる 要となる フラ整備 の必要性 周辺のインフラは既に整備済み 南側道路における入場待ち自動車の滞留解消のため、東側道路の拡幅が考えられる 敷地利用と建設方法に制 約があるが、建設は可能で ある 増築や更新を考慮した配置がある程度可能である 生存の影響は小さい 単域における 東観のの影響は小さい 原観のの影響は小さい 原観のの影響は小さい 原観のの影響は小さい 原観のの影響は小さい 原観のの影響は小さい 原観の変更が必要なく現状のままで建設が可能であるが、動地北側住民の生活 東流地域の変更が必要なく現状のままで建設が可能であるが、動地北側住民の生活 東流域に対していますが必要なく現状のままで建設が可能であるが、現場は 東流域に対していますが必要など 東流域に対していますが必要など 東流域に対していますが必要なが可能であるが必要など 東流域に対していますが必要など 東流域に対していますが 東流域に対していますが 東流域に対していますが 東流域に対していますが 東流域に対していますが 東流域に対していますが 東流域に対していますが 東流域に対していますが 東流域に対していますが 東流域に対しないますが 東流域に対しないまが 東流		仮設庁舎	仮設庁舎は必要ない		仮設庁舎が必要である					
清性 の必要性		庁舎移転	庁舎移転は1回で済む	解体する部分の移転が必	庁舎移転が2回必要となる					
要新性・拡張性 割地利用と建設方法に制 約があるが、建設は可能で ある 増築や更新を考慮した配置がある程度可能である 増築や更新を考慮した配置がある程度可能である	済				側道路の拡幅が考えられる					
て事中の影響	生		約があるが、建設は可能で ある	約があるが、建設は可能で ある	自由な敷地利用が図れる					
工事中の影響 工事中の影響 工事期間が短く、周辺への 影響は小さい 期間が長くなるが、周辺への 影響は小さい 響は小さい 響は小さい 響は小さい 対していることが期待できる 田途地域の変更が必要なく現状のままで建設が可能であるが、敷地北側住民の生活			増築や更新を考慮した配置が		/m=n -L					
全性 景観への配慮 周囲との景観的な調和は現状と大きく変わらない 地域における	境	工事中の影響		期間が長くなるが、周辺へ	が長くなるが、周辺への影					
社 地域における 約50年、市役所の場所として市民に認知されており、引き続きまちづくりの中心と	全	景観への配慮	周囲との景観的な調和は現場	犬と大きく変わらない						
田途地域の変更が必要なく現状の主まで建設が可能であるが、 敷地北側住民の生活	社		1	て市民に認知されており、引き	き続きまちづくりの中心とな					
境に影響を与えないよう配慮する必要がある。	会性	法令適合性			るが、敷地北側住民の生活環					

図表 2-3-2 各敷地の新庁舎建設に関する考察(②総合福祉会館敷地)

	候補地	②総合福祉会館敷地
	付近位置図	
	防災性	過去に災害はなく、ハザードマップによれば浸水害や土砂災害は想定されていない
安全	// 	消防本部が近く災害時の連携が図れる
性	災害時の 機能性 	住宅街の狭い幅員や一方通行の市道に囲まれており、災害時のアクセスに課題がある
		災害活動のための敷地確保が敷地内ではできない
	自動車による 利便性	周囲の道路が狭い上、庁舎ができることによる交通量の増加が見込まれるため、アクセ ス性に課題がある
機	11100	敷地面積が狭く、必要な駐車台数の確保が困難である
能性		工事期間中、来庁者駐車場が不足する
	工事期間中の 利便性 	総合福祉会館が利用できなくなる
	仮設庁舎	仮設庁舎は必要ない
	 庁舎移転 	庁舎移転1回と、総合福祉会館の移転が必要となる
経済性	インフラ整備の 必要性	現敷地だけでは狭く、用地取得や周囲の道路改良が必要であり、施設の解体に加えて、 駐車台数確保のため、立体駐車場の整備が必要となる
	 更新性・拡張性	敷地利用と建設方法に制約があるが、建設は可能である
		増築や更新に必要なスペースの確保が困難である
環境	工事中の影響	総合福祉会館の解体や道路改良のため、工事期間が長くなり、周辺への影響は大きい
保全性	景観への配慮	隣接する産業文化センターと、一体感を持たせることができるため、景観への影響が少ない
社	地域における 貢献性	現在、総合福祉会館の集会室等は、毎月20日程度利用されており、代替施設を新庁舎等で確保する必要がある
会性	法令適合性	現状の用途地域では建設できないため、用途変更が必要となる

図表 2-3-3 各敷地の新庁舎建設に関する考察(③市民公園駐車場敷地)

	候補地	③市民公園駐車場敷地
	付近位置図	
	防災性	過去に災害はなく、ハザードマップによれば浸水害や土砂災害は想定されていない
安全		消防本部が近く災害時の連携が図れる
性	災害時の 機能性 	西側道路を除き、住宅街の狭い幅員や一方通行の市道に囲まれており、災害時のアクセスに課題がある
		市民公園が隣接しているため、災害活動のための敷地が十分に確保できる
	 自動車による 利便性	北側の道路網が弱く、踏切との距離も近いため、アクセス性に課題がある
機能	1100	現在の本庁舎の駐車台数より減少する
性	- ま物明よる	工事期間中、市民公園や中央図書館の利用者用駐車場として利用できなくなる
	工事期間中の 利便性 	特になし
	仮設庁舎	仮設庁舎は必要ない
経	庁舎移転	庁舎移転は1回で済む
済 性	インフラ整備の 必要性	道路改良の用地取得及び工事が必要となる
	事实性 拉菲州	自由な敷地利用が図れる
	更新性・拡張性	増築や更新を考慮した配置がある程度可能である
環境	工事中の影響	庁舎建設工事期間は短いが、道路改良のため周辺への影響は比較的大きい
保全性	景観への配慮	低層の住宅地に周囲よりも高い建物を建てる場合、公園との景観の調和は必要である
社	地域における 貢献性	市民公園でのイベント等の際に駐車場としての需要が高く、臨時駐車場の設置が必要となる
会性	法令適合性	現状の用途地域では建設できないため、用途変更が必要となる

図表 2-3-4 各敷地の新庁舎建設に関する考察(④学びの森敷地)

	候補地	④学びの森敷地
	付近位置図	
	防災性	過去に災害はなく、ハザードマップによれば浸水害や土砂災害は想定されていない
安全		消防本部との距離が離れ、JR・名鉄線の踏切が「開かず」の状態となり、人員の移動に時間が必要となり、消防本部との災害情報の正確な共有化や人員派遣等の連携の支障となるおそれがある
性	災害時の 機能性	北東部分が第三次緊急輸送道路に面しているが、踏切による渋滞が発生しやすく災害時のアクセスに課題がある 地震発生後、踏切が「開かず」の状態となり、連携の支障となるおそれがある
		学びの森敷地内であるため、災害活動のための敷地が十分に確保できる
	自動車による 利便性	東西の交通動線が弱く、南北の道路の交通量が増えるため、慢性的な渋滞や周辺住宅地 内への迂回交通のおそれが高くなる
機	们民任	現状よりも多い駐車台数の駐車場整備が可能である
能性	工事期間中の 利便性	工事期間中、学びの森駐車場が利用できなくなる
		現庁舎はそのまま使用でき、利便性が低下することはない
	仮設庁舎	仮設庁舎は必要ない
経	庁舎移転	庁舎移転は1回で済む
	インフラ整備の 必要性	周辺環境整備及び道路改良のため、用地取得や整備工事に多額の費用が必要となる
	 更新性・拡張性	自由な敷地利用が図れる
	文材 江 加水江	敷地が広く、増築や更新を考慮した配置が可能である
環境	工事中の影響	庁舎建設工事期間が短いが、周辺整備や道路改良のため、周辺への影響は非常に大きい
保 全 性	景観への配慮	低層の住宅地に周囲よりも高い建物を建てる場合、景観の調和が問題となり、現状の公 園景観の維持には施設配置や車両動線などに配慮が必要である
社	地域における 貢献性	学びの森は、「水と緑の回廊計画」の拠点施設として整備され、多くの市民に親しまれており、敷地の一部を庁舎に利用することに広く市民の理解を得る必要がある
会性	法令適合性	現状の用途地域では建設できないため、用途地域の変更が必要となるなお、新庁舎の建設は、学びの森周辺の既存のまちを"変える"こととなり、用途地域の変更には、変更手続きだけではなく、周辺整備計画の策定とあわせ、期間は3年程度かかると考えられる

各建設候補地の現況や課題を整理した結果、「総合福祉会館敷地」と「市民公園駐車場敷地」については、現在利用中の施設の廃止、敷地面積や周辺道路交通網が十分でないなどの課題があることを総合的に考慮し、「現庁舎敷地」と「学びの森敷地」の2箇所に絞り、事業の実現性について各項目の評価を踏まえた考察を示します。

図表 2-4 事業の実現性の考察

		①現庁舎敷地			
候補地	現庁舎の 東側駐車場に 建設する場合	現庁舎の 南側駐車場に 建設する場合	現庁舎位置に 建設する場合	④学びの森敷地 	
事業の 実現性	すべき事項は あるが、大き な課題はな く、早期に事	すべき事項は あるが、大き な 課 題 は な く、早期に事	際して、仮 庁舎や仮 その で となり、 事 業費 や 事 業工	新庁舎の建設に際して、用途地域の変更、市民 の利便性や地域住民の生活環境に配慮した周 辺整備を行う必要がある。周辺整備には、多額 の事業費がかかることや用地取得等の不透明 な点があり、新庁舎建設の事業費や事業工期に も影響は大きい。	
	業を進めるこ とができる	業を進めるこ とができる	期に大きく影 響する		

新庁舎建設事業の緊急性、事業費の縮減、また防災面、市民の認知度、利便性、 交通アクセスなどを総合的に考慮し、新庁舎の建設場所は、「**現庁舎敷地」**とし ます。

3. 新庁舎の規模

(1) 庁舎規模の算定条件

①想定人口

「各務原市人口ビジョン」(平成27年6月策定)によると、本市の将来人口は、国立社会保障・人口問題研究所、日本創生会議及び本市の総合計画策定時の推計のいずれにおいても減少が見込まれていますが、総合計画における平成36(2024)年の定住人口の目標である、145,000人を庁舎規模の算定における想定人口とします。

②想定職員数

本市では、行政に対する市民ニーズの多様化や地方分権による国・県からの権限委譲による業務量増加への対応に努めるともに、事務事業の再編・整理、組織の見直しや民間への委託等の推進など行財政改革を確実に遂行した結果、人口1万人あたりの職員数は、類似団体との比較においては平均値よりかなり下回っている状況にあり、また、県内都市との比較においても平均値を下回っており、少ない職員数で、効率的な行政運営が行われている状況にあります。

今後も、少子高齢化、人口減少など地方自治体を取り巻く環境がますます厳しくなっていく中で、質の高い行政サービスを持続的に提供していくためには、地方分権や市民ニーズの多様化など時代の要請に対応した弾力的かつ適正な職員体制を継続していく必要があります。

このようなことから、庁舎規模の算定における想定職員数(嘱託職員、臨時職員を含む)については、現状の庁舎勤務職員数(約650人)をベースに、「各務原市定員管理計画」(平成27年7月策定)を参考とし、682人(特別職を含む)とします。

③想定議員数

現時点の条例定数の24人を想定議員数とします。

図表 3-1 現庁舎(本庁舎・北庁舎・総合福祉会館(健康管理課))の面積(参考)

項目	本庁舎	北庁舎	健康管理課	合計
(ア)事務室	3, 191. 4 m ²	1, 4 38. 3 m ²	190 m ²	4, 819. 7 m²
倉庫	304 m ²	117. 9 m²	_	421. 9 m²
(イ)付属面積 会議室、電話交換所、便所 等	2, 454. 7 m²	1, 842 m²	_	4, 296. 7 m²
(ウ)玄関、広間、廊下、階段	3, 165. 4 m ²	899. 5 m ²	_	4, 064. 9 m²
(エ)議事堂	1, 114. 1 m²	_	_	1, 114. 1 m²
小計	10, 229. 6 m²	4, 297. 7 m²	190 m ²	14, 717. 3 m ²
合計(現庁舎全体)		14, 71	7. 3 m ²	

(2) 市庁舎全体の規模の算定

総務省の旧地方債算定基準を活用した算定及び他市事例との比較検討により、市庁舎全体として必要な想定面積を算定します。

①-1 総務省の旧地方債算定基準

図表 3-2-1 総務省の旧地方債算定基準を活用した算定

		基準面積	換算職員数 P	人数	面積 A×B×C
		A		-	360. 0
	部・次長級		9. 0	33 人	1, 336. 5
(マ) 東政党	課長級	4.5 ㎡/人	5. 0	35 人	787. 5
(ア)事務室	課長補佐・係長級		2. 0	245 人	2, 205. 0
	その他の職員	1	1. 0	365 人	1, 642. 5
	場目 A B C ・ 事務室 特別職 部・次長級 課長級 課長級 課長補佐・係長級 その他の職員 (小 計) 4.5 m²/人 20.0 4人 9.0 33人 2.0 245人 1.0 365人 682人 ・ (小 計) ・ (ア) × 13% 会議室、電話交換所、便所 等 7 m²×職員数 (想定職員 682人) 3 を設定している場合 ・ (ア) と (イ) の合計面積×40%	6, 331. 5			
	倉庫	(ア) ×13%		823. 1	
(イ)付属面積		7㎡×職員数	(想定職員 682	(人)	4, 774. 0
(ウ)玄関、広	間、廊下、階段等	(ア) と (イ)	の合計面積×	40%	4, 771. 4
(エ)議事堂		35 ㎡×24 人 (議員定数)			840. 0
合計	†(市庁舎全体)		17, 54	0. 0 m²	

①-2 総務省の旧地方債算定基準に文書量調査、付加機能等を反映

- ・「部・次長級」以下の事務室面積は、現庁舎執務室内及び倉庫内の文書量を集計した文書量調査の結果より、職員一人あたりの面積8.7 m²として算定しています。
- ・議事堂は、現庁舎の議会部分の面積を記載しています。
- ・総務省の旧地方債算定基準には含まれていない防災拠点機能、市民サービス機能等の付 加機能の面積を、他市の事例を参考に加算しています。

図表 3-2-2 総務省の旧地方債算定基準に文書量調査、付加機能等を反映した算定

	項目	基準面積 A	換算職員数 B	人数 C	面積 A×B×C	
	特別職	4.5 ㎡/人	20.0	4 人	360. 0	
	部・次長級課長級					
(ア)事務室	課長補佐・係長級	8.7 ㎡/人	1. 0	678 人	5, 898. 6	
	その他の職員					
	(小 計)			682 人	6, 258. 6	
	倉庫	(ア) ×13%		813. 6		
(イ)付属面積	会議室、電話交換所、便所 等	7㎡×職員数	(想定職員 682	! 人)	4, 774. 0	
(ウ)玄関、広	間、廊下、階段	(ア) と (イ)	の合計面積×	40%	4, 738. 5	
(エ)議事堂		現状の面積		1, 100. 0		
合計	十(市庁舎全体)	17, 684. 7 m ²				
付加機能(2, 300 ㎡)を加えた合計		19, 98	4. 7 m²		

※付加機能…防災機能スペース(災害対策本部室、防災無線室、備蓄倉庫)、窓口サービス機能スペース(窓口、待合、授乳室、キッズスペース、相談室)、多目的スペース、市政情報スペース、情報管理スペース(サーバー室)

②近年の新庁舎建設事例

図表 3-3 近年の新庁舎建設事例の比較

自治	合体名	人口	新庁舎の 予定職員数 (正規、 嘱託等)	延床面積 (①)	人口 一人当たり 面積	職員 一人当たり 面積	総務省旧地方債 算定基準 (②)	面積比 (①/②)	竣工時期 (予定)
А	市	121,336 人	600 人	20, 403. 89 m ²	0. 17 m²	34. 01 m²	14, 344 m ²	1. 42	平成 27 年 10 月
В	市	238, 559 人	1,043 人	27, 979. 69 m ²	0. 12 m²	19. 23 m ²	24, 585 m ²	1. 14	平成 27 年 11 月
С	市	234, 613 人	1,041人	28, 499. 4 m ²	0. 12 m²	27. 38 m ²	24, 688 m ²	1. 15	平成 27 年 12 月
D	市	43, 178 人	297 人	9, 508. 79 m ²	0. 22 m²	32. 02 m²	7, 356 m ²	1. 29	平成 28 年 3 月
E	市	56, 107 人	391 人	12, 710 m ²	0. 23 m ²	32. 51 m ²	8, 584 m ²	1. 48	平成 28 年 7 月
F	市	94, 401 人	300 人	10, 452 m ²	0. 11 m²	34. 84 m ²	9, 000 m ²	1. 16	平成 28 年度
G	市	76, 708 人	450 人	17, 339. 11 m ²	0. 23 m²	38. 53 m ²	14, 717 m ²	1. 18	平成 28 年度
Н	市	130, 713 人	601 人	17, 958 m ²	0. 14 m²	29. 88 m ²	15, 104 m ²	1. 19	平成 29 年 2 月
I	市	106,965 人	524 人	14, 827 m ²	0. 14 m ²	28. 30 m²	13, 000 m ²	1. 14	平成 29 年 3 月
J	市	183, 148 人	865 人	24, 911 m ²	0. 14 m²	28. 8 m ²	21, 400 m ²	1. 16	平成 29 年 4 月
	平均①				0. 16 m²	30. 55 m²		1. 23	
2	型均(2)(最高値とま	最低値を除	いた平均値)	0. 15 m ²	30. 97 m²		1. 22	

③まとめ

総務省の旧地方債算定基準を活用した算定及び他市事例との比較検討により、防災拠点機能や市民サービス機能を考慮し、市庁舎の全体規模として想定される延床面積は20,000㎡程度とします。

図表 3-4 市庁舎全体の想定延床面積と各項目の比較

自治体名	人口	庁舎の 想定職員数 (正規、 嘱託等)	延床面積 (①)	人口 一人当たり 面積	職員 一人当たり 面積	総務省旧地方債 算定基準 (②)	面積比 (①/②)
各務原市 (想定)	145, 000 人	682 人	20, 000 ㎡	0. 14 m²	29. 3 m²	17, 540. 0 m²	1. 14

(3) 新庁舎の規模の算定

新庁舎の規模は、市民の利用状況及び業務の関連状況を踏まえた既存庁舎の活用について検討し、想定面積を算定します。

①既存庁舎の活用に関する条件

○ 既存庁舎を活用しない場合

庁舎機能を新庁舎に集約することとなるため、新庁舎の規模は市庁舎全体の規模である20,000㎡程度となります。

庁舎機能を集約した新庁舎の想定面積 20,000㎡程度

○ 既存庁舎を活用する場合

既存庁舎の活用は、新庁舎の規模や事業費を抑えられるため、活用が可能な既存庁舎 について検討します。活用が可能な既存庁舎としては、現在も市庁舎機能を有する「北 庁舎(産業文化センター)」、市庁舎機能が一部入居する「総合福祉会館(健康福祉部健 康管理課)」、「水道庁舎」の3つの庁舎が挙げられます。

水道庁舎は、公営企業会計上の資産であり、平成12年度に耐震補強及び改修工事を行っています。南海トラフ巨大地震やゲリラ豪雨等による大規模災害が突発的に発生しても、迅速で一体的なライフラインの復旧を図る体制を整備するため、新庁舎の建設に伴い、関係部門(上下水道事業部門)を水道庁舎に有効的に配置することを検討します。なお、水道庁舎の有効活用とあわせ、日頃の市民サービスが低下しないよう、引き続き、市民サービス、利便性の維持を図っていく必要があります。

図表 3-5 水道庁舎の現況 (昭和49年3月竣工・鉄筋コンクリート造4階建・耐震改修済)

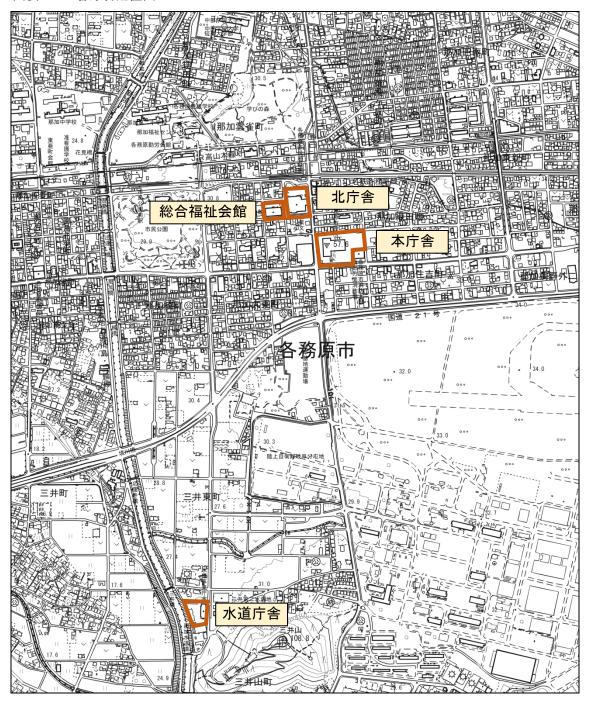
4 階	水道施設管理センター	614. 57 m²		
3階	(大会議室、中会議室、図面管理室、ロッカー、倉庫等)	516. 37 m ²		
2階	2階 (事務室、部長室、倉庫等)			
1階	埋蔵文化財調査センター	508. 68 m²		
合 計		2160. 84 m ²		

図表 3-6 各庁舎の組織配置イメージ(※現状の組織に基づく)

) 新 庁 舎	市長公室、企画総務部、市民部、健康福祉部(健康管理課を除く)、環境水
利	道部(環境政策課)、都市建設部(下水道課を除く)、議会事務局、会計課
北 庁 舎	産業活力部、教育委員会、選挙管理委員会・監査委員事務局
総合福祉会館	健康福祉部(健康管理課) (保健相談センター)
水 道 庁 舎	環境水道部 (水道総務課、水道施設課)、都市建設部 (下水道課)

また、市内6箇所にある市民サービスセンター(市出張所)については、機能の強化・ 充実を求める意見もありますが、市出張所の役割である「市民生活と関わりが深い最寄 りの窓口」として、今後も現状の機能を維持するとともに、エリア担当職員の配置等に より、きめ細やかな対応を図っていく必要があります。

図表 3-7 各庁舎配置図



【北庁舎(産業文化センター)の活用床面積】

現在の活用床面積は、約4,300㎡となります。

新庁舎の建設に伴い、北庁舎に配置が想定されるの部署について、現行の所属職員数を参考に、必要面積を算定します。

また、北庁舎には、7階の大会議室(約250㎡)を含めて、会議室が10室(合計約1,650㎡)あり、現状において市庁舎の会議室として他施設の職員も使用することも多くあるため、新庁舎建設後も現状と同等の機能として活用する計画とします。

北庁舎の活用床面積は、下記のとおり職員数から算定した約4,370㎡に、8階の特別会議室(合計約450㎡)、エントランスロビー(※展示等で使用する部分 約100㎡)を加算した約4,900㎡を全体の活用床面積とします。

基本機能 ④議会 ②会議室等 3倉庫 ⑤玄関等 ①事務室※ ⑥市民対応 合計面積 ⑤に含む m^{*} 合計 実面積 実面積 実面積 算定值 1, 299. 3 4, 370. 4 8.7 140 1, 656. 1 515.5 899.5 8 階特別会議室 445.7 445.7 エントランスロビー 102.0 102.0

515.5

1,001.5

4, 918. 1

図表 3-8 北庁舎 (産業文化センター) の活用床面積

合計

【総合福祉会館(健康福祉部健康管理課)の活用床面積】

1, 299. 3

総合福祉会館には、健康福祉部健康管理課を配置する想定ですが、平成28年度末(予定)に新設される「(仮称)市東部健康相談センター」に健康管理課職員が配置されることを想定し、総合福祉会館には現行の所属職員数の約半数である16名が在籍すると想定して必要面積を算定します。

活用床面積は、下記のとおり、現行と同様の約190㎡とします。

2, 101.8

図主 3_0	公人 行 か 合 倍	(健康福祉部健康管理課)	の洋田中西語
スコイン コーラ	100 C TEMPINOTE RE		

	基本機能								
	①事務室※			②会議室等	3倉庫	④議会	⑤玄関等	⑥市民対応	合計面積
	m²	人	合計	-	事務室面積×13%	-	(1)+2)+ (3) × 20%	⑤に含む	m ⁴
算定値	8. 7	16	139. 2	-	18. 1	-	31.5	-	188. 8

※事務室は、文書量調査より職員1人あたりの面積を8.7 ㎡と設定

- ※ 総合福祉会館の庁舎部分は単一の課のみになるので「会議室等」を計上していません。
- ※ 「玄関等」では、健康管理課の廊下のみを計上し、事務室と倉庫の合計面積の20% を対象として算出しています。

[※]事務室は、文書量調査より職員1人あたりの面積を8.7 ㎡と設定

【水道庁舎の活用床面積】

水道庁舎には、上下水道事業部署を集約することを前提に検討します。

水道庁舎の延床面積は約2,160㎡ですが、新庁舎建設に伴う活用床面積は、移転する対象部署の現行の所属職員数を参考にした執務室等の床面積として、必要面積を算定します。

活用床面積は、下記のとおり約1,000㎡とします。

図表 3-10 水道庁舎の活用床面積

		基本機能							
		①事務	室	②会議室等	③倉庫	④議会	⑤玄関等	⑥市民対応	合計面積
	m [*]	人	合計	7 ㎡×職員数	事務室面積×13%	-	(1)+2)+ (3) × 40%	-	m ^đ
算定値	8. 7	43	374. 1	301.0	48. 6	-	289. 5	-	1, 013. 2

※事務室は、文書量調査より職員1人あたりの面積を8.7 ㎡と設定

②既存庁舎を活用する場合の新庁舎の規模

既存庁舎を活用する場合の新庁舎の想定面積は、下記のとおり市庁舎の全体規模から 活用する既存庁舎の床面積を引いた、約13,910㎡となります。

図表 3-11 既存庁舎を活用する場合の新庁舎の規模

①市庁舎機能 合計面積	②北庁舎	③総合福祉会館	④水道庁舎	新庁舎 ①-②-③-④
20, 000 m²	4, 900 m ²	190 m²	1, 000 m ²	13, 910 m²

既存庁舎を活用した新庁舎の想定面積 14,000㎡程度

図表 3-12 既存庁舎を活用した場合の新庁舎の職員数による必要面積の算定(参考)

	項目	基準面積 A	換算職員数 B	人数 C	面積 A×B×C
	特別職	4.5 ㎡/人	20.0	3 人	270. 0
	部・次長級	8.7 ㎡/人	1.0	480 人	
(ア)事務室	課長級				4, 176. 0
(ア) 事物主	課長補佐・係長級				4, 170. 0
	その他の職員				
	(小 計)			483 人	4, 446. 0
	倉庫	(ア) ×13%			578. 0
(イ)付属面積	会議室、電話交換所、便所 等	7 m ² ×職員数(想定職員 483 人)			3, 381. 0
(ウ)玄関、広	間、廊下、階段	(ア) と(イ) の合計面積×40%			3, 362. 0
(エ)議事堂		現状の面積 1,100.0			
슫	計(新庁舎)	12, 867. 0 m²			
付加機能(2,300 ㎡)を加えた合計	15, 167. 0 m²			

③既存庁舎の活用に関する比較(まとめ)

図表 3-13 既存庁舎の活用に関する比較

条件	新庁舎 想定面積	メリット	デメリット	※参考 本体建設工事費 (想定:45 万円/㎡)
庁舎機能を集約する場合	20, 000 ㎡ 程度	・来庁者の利便性が向上する。(施設間の移動がなくなる) ・業務の連携が容易となる。	・新庁舎の規模が大きくなり、建設費用の規模が用にいまでは、 ・建物規模に合わせて、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	約 90 億円
既存庁舎を活用する場合	14, 000 ㎡ 程度	・周辺施設を有効規す を有舎のと。が、 を方計きるが、 をがいたで、 でででは、 でででででででででででででででででででででででででででででで	・庁舎間の行き来が生じることがある。	約 63 億円

※本体建設工事費は、<u>現時点における想定の本体建設工事費のみ(基本構想時の想定単価)</u> を記載したものであり、外構工事費、設計費、その他事業に係る経費は含んでいません。

新庁舎建設については、経済性を考慮し、できる限り既存庁舎を活用することにより事業費の縮減を図ることが重要であるため、新庁舎の規模は、**既存庁舎を活用し、14,000㎡程度**とします。

なお、新庁舎の規模は、建物や駐車場などの配置計画、新庁舎におけるフロア 構成など不確定要素が多い中での想定により算出しているため、今後、基本設計 や実施設計での具体的な検討において、新庁舎の面積を決定します。

4. 新庁舎の機能

(1) 新庁舎の基本理念及び基本方針

基本構想では、各務原市の目指す新庁舎の「基本理念」を定め、基本理念を具体化するための「基本方針」を定めました。さらに、新庁舎の基本理念及び基本方針に基づき、新庁舎の「導入機能の方針」を定め、その方針に沿った新庁舎に求められる機能を示します。

基本理念

市民の安全・安心な暮らしを支え みんなにやさしい庁舎

【役割】	基本方針	導入機能の方針				
1防災拠点 吐災地上の機能が用土土 7 亡金 (1) 社事性の地位						
1 例及拠点	防災拠点の機能が果たせる庁舎	(1) 耐震性の確保				
		(2) 災害対策本部機能の整備				
		(3) バックアップ機能の整備				
0 + 0 11 13 -						
2 市民サービス	誰もが利用しやすい庁舎	(4) 窓口機能の整備				
		(5) 相談機能の整備				
		(6) 駐車場・駐輪場の整備				
		(7) 移動しやすい空間の整備				
		(8) 利用しやすい設備の整備				
		(9) 分かりやすい案内の整備				
	市民に親しまれる庁舎	(10) 交流機能の整備				
		(11) 情報発信機能の整備				
		(12) 議会施設の整備				
3 環境配慮	経済性に配慮した	(13) 省エネルギーへの対応				
	環境にやさしい庁舎	(14) ライフサイクルコスト低減への対応				
4 執務空間	機能的・効率的な庁舎	(15) 執務空間の整備				
		(16) 会議室等の整備				
		(17) セキュリティ機能の整備				

(2) 導入機能の整備方針

《基本方針1》防災拠点の機能が果たせる庁舎

【導入機能の方針1】耐震性の確保

- 新庁舎は、市民の安全、安心を守る重要な拠点であり、災害対策本部など総合的な防災拠点としての十分な機能確保が求められることから、国土交通省が官庁施設の特性に応じて耐震安全性の目標を定めた「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準」による最高水準の耐震性能(I類・A類・甲類)を確保します。
- 新庁舎の建設にあたっては、「免震構造」の採用を検討し、地震による振動を建物に伝わりにくくすることで、大地震発生時の建物の設備や機能の被害を最小限に抑え、防災拠点、災害復旧復興拠点としての機能を維持できる計画とします。

図表 4-1 官庁施設の総合耐震・対津波計画基準(国土交通省)

部位	分類	重要度 係数	耐震安全性の目標	対象施設	目標Is値		
	I類	1.5	大地震後、構造体の補修をすることなく建築物 を使用できることを目標とし、人命の安全確保 に加えて十分な機能確保が図られている。	拠点庁舎 拠点病院	0.9以上		
構造体	Ⅱ類 1.25		大地震後、構造体の大きな補修をすることなく 建築物を使用できることを目標とし、人命の安 全確保に加えて機能確保が図られている。	市民会館 〇.75以. 避難施設			
	Ⅲ類	1.0	大地震により構造体の部分的な損傷は生じる が、建築物全体の耐力の低下は著しくない事を 目標とし、人命の安全確保が図られている。	上記以外の 一般公共 建築物	0. 6以上		
非構造	A類			食物の管理のう 票とし、人命の			
部材	B類	大地震により建築非構造部材の損傷、移動が発生する場合でも、人命の安全確保と二次 災害の防止が図られている。					
建築 設備	甲類	大地震後の人命の安全確保及び二次災害の防止が図られていると供に、大きな補修をすることなく、必要な設備機能を相当期間継続できる。					
	乙類	大地震後の人命の安全確保及び二次災害の防止が図られている。					

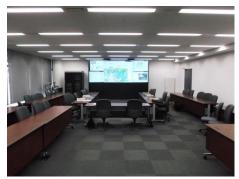
: 本施設の該当項目

図表 4-2 耐震・制振・免震構造の比較

	耐震構造	制震構造	免震構造
イメージ図		制振部材	免糜装置
特徴	○ 建物自体を堅固にすることで、地震の揺れに耐える。○ 激しく揺れ、壁や家具などが損傷しやすい。	○ 建物に制震装置(ダンパー)を組み込んで、地震エネルギーを吸収することで、地震の揺れを低減する。○ 揺れは低減されるが、什器・家具などの破損の恐れはある。	○ 建物と地盤の間に免震装置を設置し、建物を地面から切り離すことにより、地震の揺れを建物に伝わらないようにする。 ○ 建物がゆっくり揺れるので、ひび割れなどの損傷が少なく、室内の家具も転倒しにくい。
維持管理	通常の維持管理	通常の維持管理に加え、大地震 後には臨時点検が必要となる 場合がある。	通常の維持管理に加え、5年間 隔程度の定期点検が必要とな る。
適正範囲	建物上層部の揺れが大きくなるので、高層建築には不向きである。	高層〜超高層建物にて特に有 効である。	低層~中層建物にて有効である(中規模地震では中層建物にて有効)。
一般的な 費用負担	制震構造や免震構造と比べ、コストは低い。	耐震構造と比べ、コストは高くなるが、免震構造よりは低い。	耐震構造や制震構造と比べ、コストは高くなる。

【導入機能の方針2】災害対策本部機能の整備

- 災害時に迅速な対応を行うため、常設の災害対策本 部機能の整備を行います。
- 災害対策本部を機能させるために必要な情報受発 信設備などの資機材を整備し、消防本部との連携な どの災害対策活動に備える計画とします。



事例:災害対策本部(岡崎市)

【導入機能の方針3】バックアップ機能の整備

- ライフラインのバックアップ機能として、3日以上 連続運転が可能な自家発電装置、電力供給の多重化、 太陽光発電や雨水の活用など、ライフラインが途絶 えた場合でも通常業務や災害支援活動の維持が可 能な計画とします。
- 食料や飲料水などの備蓄、災害物資の保管が可能な スペースを確保します。



事例:自家発電装置(刈谷市)

《基本方針2》誰もが利用しやすい庁舎

【導入機能の方針4】窓口機能の整備

- 市民利用の多い窓口機能は、低層階に集約配置します。
- 各種証明書の交付事務のみを総合的に行う窓口の 設置や、転入、転出、出産、死亡等のライフイベ ントに関連する手続きの担当窓口を隣接して配置 するなど、市民が利用しやすい窓口の整備を行い ます。
- 繁忙期にも対応できるよう、十分な広さの待合 スペースを確保します。
- 時期による臨時的な窓口の開設にも対応できる多 目的なロビースペースを確保します。



事例:窓口フロア(小牧市)



事例:多目的ロビー(立川市)

【導入機能の方針5】相談機能の整備

- 仕切りのあるカウンターや相談室(個室)を設置 し、来庁者の個人情報やプライバシーの保護に配 慮した計画とします。
- 各課の利用状況に即した相談窓口数を確保するな ど、市民が快適に利用できる計画とします。



事例: 仕切りカウンター(つくば市)

【導入機能の方針6】駐車場・駐輪場の整備

- 来庁者用駐車場として、170台以上の駐車台数 を確保します。
- 駐車場出入口については、周辺道路に混雑が生じない位置に設けるとともに、敷地内に十分な滞留空間を確保する計画とします。
- 駐輪場は、敷地内に複数箇所設置し、余裕あるスペースとする計画とします。



事例:駐輪場(長浜市)

【導入機能の方針7】移動しやすい空間の整備 【導入機能の方針8】利用しやすい設備の整備

- 敷地内や庁舎内の段差の解消、歩きやすい床仕上げ、 移動しやすい動線など、誰もが安全・安心に利用で きるユニバーサルデザインの空間づくりを計画し ます。
- 障がい者や高齢者に配慮し、駐車場、駐輪場から庁 舎内へのスムーズな動線を確保します。
- 各階に多目的トイレを設置します。市民利用の多い 低層階には、オストメイト対応設備、ベビーベッド を設置するなど、様々な利用者のニーズに合わせ て、設備や配置に配慮した計画とします。
- 子育て関連の手続き窓口があるフロアには、キッズスペースや授乳室を設置します。



事例:思いやり駐車場(長浜市)



事例:多目的トイレ(半田市)



事例:キッズスペース(青梅市)

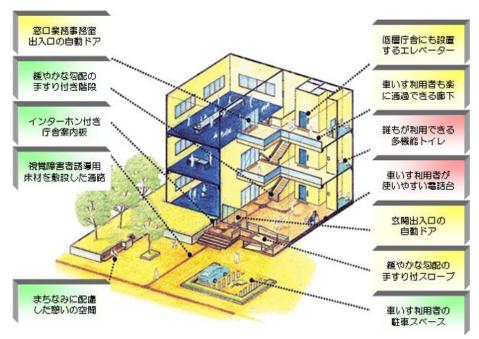
【導入機能の方針9】分かりやすい案内の整備

- 誰にとっても分かりやすい庁舎とするため、音声 案内、多言語表記、点字を併記した案内板の設置 を計画します。
- 色やピクトグラムを有効に使い、明瞭で誰もが分 かりやすいサイン表記を計画します。
- 総合案内やフロアアシスタントなど、フロアを案 内する職員の連携が取れた計画とします。



事例:総合案内、案内表示(半田市)

図表 4-3 きめこまやかなバリアフリー庁舎のイメージ



(出典:国土交通省中部地方整備局)

《基本方針3》市民に親しまれる庁舎

【導入機能の方針10】利便・協働・交流機能の整備

- 待ち時間などに市民ギャラリーやイベント、市民の啓発活動などに見て過ごすことができるような多目的なロビースペースを計画します。なお、ミーティングなどで活用する市民協働スペースについては、夜間や休日の利用も考えられることから、産業文化センターや福祉センター等の活用を検討します。
- 来庁者、職員ともに利用しやすい利便施設(売店、ATMなど)については、需要に見合った機能や規模とすることに留意し、必要に応じて計画します。

【導入機能の方針11】情報発信機能の整備

- 市政に関する必要な情報を容易に入手できるよう、 市政に関する資料やパンフレットなどを集約して 配置する市政情報コーナーや、市外から訪れた人 に各務原市への関心を深めてもらえる機会を提供 するため、各務原らしさに触れることができる、 本市の歴史や文化、自然を紹介するコーナーを設 置します。
- 待合などWi-Fi の利用が可能なエリアを設け、 来庁者への情報発信手段を提供するとともに、災 害時には必要な情報を得られる仕組みを検討します。



事例:市政情報コーナー(小牧市)

【導入機能の方針12】議会施設の整備

- 市民の接しやすさや親しみやすさを考慮し、利用 しやすい傍聴席とするなど、ユニバーサルデザイ ンによる整備を計画します。
- 関係者以外が自由に出入りできないよう、セキュリティに配慮した諸室の配置を計画します。



事例:議場(町田市)

《基本方針4》経済性に配慮した環境にやさしい庁舎

【導入機能の方針13】省エネルギーへの対応

- 国土交通省の官庁施設の環境保全性基準」を踏まえたグリーン庁舎としての建設を目指し、自然エネルギーや省エネルギー技術などを採用した、環境負荷低減やランニングコストの低減に配慮した計画とします。
- 太陽光発電、地中熱利用、雨水利用などの自然エネルギー技術の活用や、自然通風や自然採光を効率的に取り込みます。



事例:太陽光パネル(小牧市)

- 高効率機器(LED照明、高効率熱源等)を積極的に採用します。
- 維持管理の最適化を図るため、建物のエネルギーや機器効率などが把握可能なビルエネルギー管理システムの導入を検討します。

図表 4-4-1 グリーン庁舎のイメージ(1)

長寿命 ○ゆとりある設計によるフレキシビリティの確保 ○耐久性が高く維持管理の容易な材料の使用等による庁舎の長寿命化 適正使用・ IJ 適正処理 マテリアル ○建設時における建設副産物の ○資源の枯渇に配慮した材料、 発生抑制や再資源化 リサイクルが容易な材料、 ○施設運用時の廃棄物の適正処理 環境負荷の少ない材料の採用 省エネ・ 周辺 省資源 環境保全 ○大気、水質、土壌等の周辺 ○負荷の抑制 環境の汚染防止 ○自然エネルギーの利用 ○地域生態系の保全 ○エネルギー資源の有効利用

(出典:国土交通省)

太陽光発電 十分な断熱 屋上緑化 雨水散水 庇による 直射光のカット 自然換気 高性能ガラス きめ細かい 照明制御 落葉樹による 日射のカット 高効率照明 エコマテリアル 躯体の長寿命化 による内装 透水性舗装 主要設備機器の高効率化 排水再利用 雨水利用

図表 4-4-2 グリーン庁舎のイメージ(2)

(出典:国土交通省)

【導入機能の方針14】ライフサイクルコスト低減への対応

- 長く市民に愛され、ニーズに応え続けられる庁舎 とするとともに、時代の変化に対応できるフレキ シブルな施設利用、効率的な維持管理などに配慮 した計画とします。
- 維持管理の優れた建築構造と材料の採用や、将来 を見据えた設備の老朽化や機能更新に対応しやす い計画とします。
- 省エネ効果に加え、清掃や点検作業などの庁舎維持管理のしやすさを考慮し、ベランダ(庇)のある構造を計画します。



事例:ベランダ(安曇野市)

《基本方針5》機能的・効率的な庁舎

【導入機能の方針15】執務空間の整備

- 執務室は、各部署間に間仕切りを設けずオープンな空間とし、適切な文書管理によりキャビネットの高さを抑えた見通しが利く計画とします。
- 通路と執務室の仕切りはカウンターとし、オープン で明るい空間となるよう配慮します。
- フリーアクセスフロアを基本とし、組織改正による OA機器の自由なレイアウト変更に対応できる計 画とします。
- 庁舎は、自衛隊航空機の騒音が気にならない高い防 音性能とします。

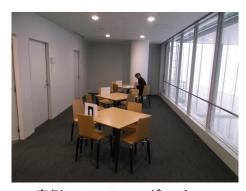




事例:執務空間(半田市)

【導入機能の方針16】会議室等の整備

- 日常的な打合せや各種会議が可能な場所など、利用 人数と目的に応じた会議室やミーティングスペー スの配置を計画します。
- 会議室など一定期間継続した使用が可能なスペースに、電話、AC電源、情報ケーブルなどを設置し、一時的な執務空間として利用が可能な計画とします。
- 文書管理に関し、保存年限の見直し、文書の電子化、 適正な書庫の配置など、整理された効率的な執務空 間を計画します。



事例:ミーティングスペース (町田市)

- 職員の健康増進と円滑な職務遂行のため、適切な福利厚生施設を設置します。
- 更衣室や休養室は、職員数、男女比率などを考慮し、適切に設置します。

【導入機能の方針17】セキュリティ機能の整備

- 庁舎内は、執務時間内のほか、執務時間外や休日開 放時にもセキュリティに十分配慮した運用を行う ことができるセキュリティレベルが区分された計 画とします。
- 重要な書類や電子データなど、市民のプライバシー に関する個人情報について、徹底した管理が可能な 計画とします。
- 庁舎の出入口付近や庁舎内の適切な場所に防犯カメラを設置するなど、防犯機能に優れた庁舎とします。



事例: I Cカード認証(甲府市)

- システムサーバー室は、建物とは別に高度なセキュリティシステムを採用する計画とします。
- I Cカード認証や生体認証などによる職員の入退室管理が可能な機能を整備します。

図表 4-5 庁舎セキュリティのイメージ



(3) 新庁舎の階層及び機能配置

新庁舎の機能配置(フロア構成)は、市民サービスの向上や行政の事務効率の向上を図ることができるよう、おおむね次のような配置とします。

【低層階】

低層階は、来庁者の利便性に配慮し、市民等の利用頻度が高い窓口機能、市政情報等の情報発信機能等を中心とした配置とし、業務連携等が必要な部署は、可能な限り近接した配置とします。

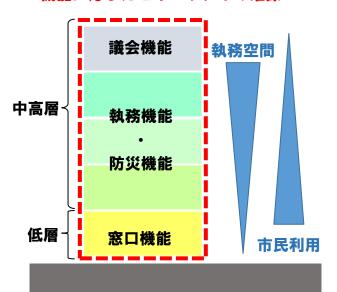
【中・高層階】

中層階には、低層階の次に来庁者が多い部署から順次配置することとしますが、セキュリティ面への配慮が必要な部署や災害時の指揮系統の中心となる防災機能については、可能な限り独立したフロアへの配置とします。

議会機能については、独立性を確保するため、行政関連部署との動線が交わらないように配慮し、高層階への配置とします。

図表 4-6 フロア構成イメージ

機能に応じたセキュリティの確保



【高層階】

- ・議会機能:議会の独立性を保った上で、 市民の利便性やセキュリティの確保を 考慮して配置
- ・日常的な窓口機能を有しない部署を中心 とした執務室

【中層階】

- ・行政機能や防災機能を担う部署
- 重要な情報通信機能や非常用設備等

【低層階】

- 窓口機能を中心に市民の利用頻度の高い 部署
- ・交流スペース、情報発信スペース等市民 利用に係る施設
- ・税の申告相談や期日前投票などにも利用 できる多目的会議室の設置を検討

【共通事項】

- ・セキュリティの確保や動線分離の観点などから、市民の利用空間と執務空間を区分した配置
- ・エレベーター及び階段の配置への配慮

5. 事業手法等

(1) 事業手法

基本構想では、新庁舎建設の事業手法として、①従来方式、②DB方式、③DBO方式、④リース方式、⑤PFI方式について比較・検討を行い、④リース方式、⑤PFI方式については、金利分の将来への負担増加により、財政支出の平準化効果のメリットは少ないとしています。

基本計画では、①従来方式、②DB方式、③DBO方式の比較について示します。

図表 5-1 事業手法の比較

因表 5-1 事業于為の比較						
	従来方式	DB方式 (Design Build)	DBO方式 (Design Build Operate)			
	設計施工分離発注	設計施工	一括発注			
概 要	公共が資金調達し、設計、 施工業務について、業務 ごとに民間事業者に請 負・委託契約として発注 する方式	公共が資金調達し、設計 及び施工を民間事業者 に包括的に請け負わせ る発注方式	公共が資金調達し、公共 が所有権を有したまま、 設計、施工、維持管理を 民間事業者に包括的に委 託する方式			
フローイメージ	市民 意見 選契約 意見 設計 反映 定約 意見 建設工事	事業者 要求書 設計 ・・アドバイザー 建設工事	市民 定 定 契 契 設計 市・アドバイザー 維持管理・ 運搬 維持管理・ 運運			
メリット	設計段階でワークショップなどを行うことで、市民意見を反映させやすい。行政は直接の発注者であるので、設計者や施工者に意見や修正指示を出すことが可能である。	式の場合は、維持管理、 待できる。 ・高度な技術を要する工事 盤における工事等特殊な	した設計、施工(DBO方 運営まで)を行うことが期 (大型の橋梁等)や軟弱地 な施工を要する場合におい 等により、コスト縮減や工 る可能性がある。			
デメリット	• 高度な技術を要する工事(大型の橋梁等)や軟弱地盤における工事等特殊な施工を要する場合、施工者のノウハウを活かしにくい。	映など設計内容を変更す	選定に時間を要し、従来方			
評価	0		O			

※設計段階から施工者が関与し技術協力することで、発注時に詳細仕様の確定が困難な事業に対応する「ECI方式(Early Contractor Involvement)」がありますが、新たな方法として適用事例がまだ少なく、標準的な庁舎の建設工事において採用する効果が検証できないため、施工者の選定において参考とします。

新庁舎建設事業の緊急性や事業過程における市民参加を重視するため、新庁舎 建設の事業手法は、「従来方式(設計施工分離発注)」とします。

(参考) PFI方式及びリース方式について

PFI方式(Private Finance Initiative)は、公共事業を実施するための手法の一つで、民間の資金と経営能力・技術力(ノウハウ)を活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う公共事業の手法です。当該施設の所有権の移転時期によってBTO方式やBOT方式に分類されますが、基本的には民間事業者が資金調達及び建設を行い、建設費用・維持管理・運営費用とそれらの金利を行政が分割して負担することが特徴です。

リース方式とは、民間事業者が資金調達したうえで設計、建設を行い、公共が施設を長期リースする方式。施設の所有は民間事業者となり、建物全体を公共がリースすることから、建物の賃貸借契約となることが特徴です。

本庁舎耐震化基本構想では、「本市の財政状況を勘案した場合、建設時の一時的な財政支 出が許容できると考えられるため、リース・PFI方式による財政支出の平準化効果は、 高い金利分による将来への負担増加に比べメリットが少ない」とし、採用しないことを決 定しました。

図表 5-2 PFI方式及びリース方式の概要

BTO方式(Build	民間事業者が資金調達・建設を行い、建設した直後に建物の所有権を自治体等に移転し、その
Transfer Operate)	後、契約に基づき民間事業者が維持管理・運営を行う方式。
BOT方式(Build	民間事業者が資金調達・建設・維持管理・運営を行い、契約期間終了後に建物の所有権を自治
Operate Transfer)	体等に移転する方式。
リース方式	民間事業者が資金調達したうえで設計、建設を行い、公共が施設を長期リースする方式。施設の所有は民間事業者であるが、建物全体を公共がリースすることから、建物の賃貸借契約となる。維持管理及び運営は、民間事業者への委託契約となるが、この契約については別途の契約とする場合と一体の契約とする場合とがある。また、リース期間終了後は、施設の所有権を公共に移転する方式が多く採用されている(リースバック方式という場合もある)

(2) 設計者の選定手法

設計者の選定手法には、一般的に①競争入札方式、②プロポーザル方式、③コンペ方式がありますが、新庁舎建設おける各手法の概要やメリット・デメリットについて比較します。

図表 5-3 設計者の選定手法の比較

	競争入札方式	プロポーザル方式	コンペ方式
概 要	提示する条件(仕様書) に対し、設計料の入札を 行い、 <u>一番安価な業者を</u> 選 <u>定</u> する方式	課題に対する提案や業務 実施方針、類似業務実績 などを評価し、 最も優れ た「設計者」を選定する 方式	2人以上の競技者による 設計案(設計図書)を評 価し、 <u>最も優れた「設計</u> 案 <u>」を選定</u> する方式
メリット	多くの業務で採用されている。手続きが容易で、公平性、透明性、機会均等性がある。	• 「設計者」を選定しているので、市や市民の意見を踏まえて設計を進めることができる。	・設計者選定時には概ね 設計を固めることがで きる。
デメリット	・十分な計者が安価できれている場合も想定者の関係できる場合を発注者の関係を表現である。 ・一分な場合を表記を表現できる。 ・一分な場合を表記を表現できる。 ・一分のでは、水のでは、水のでは、水のでは、水のでは、水のでは、水のでは、水のでは、水	・評価方法や評価基準を 明確にする必要がある。	設計競技準備、競技者による設計案の作成、選定の各段階にそれぞれ時間を要する。「設計案」を選定しているので、その後の設計案の大幅な変更は困難である。
評価	Δ	0	0

新庁舎建設事業過程における市民参加を重視するため、設計者の選定手法は、 市民の意見を新庁舎の設計に反映させやすい「プロポーザル方式」とします。

6. 整備スケジュール

基本計画の策定後、設計者の選定を進め、平成28年度中の設計着手を目指し、平成32 年度中の新庁舎完成を目指します。

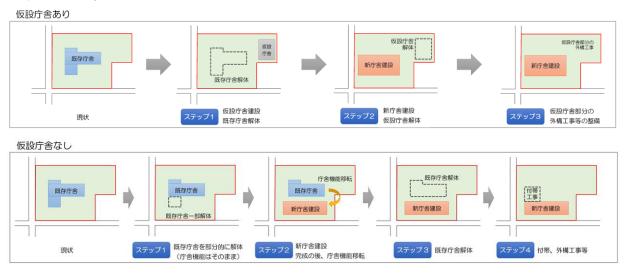
基本計画の検討段階において想定される整備方法によって、次のようなスケジュールが考えられますが、今後設計を進める中で平成29年度以降の予定が具体化することになり、仮設庁舎を必要としない手法や設計者からの提案などにより、変更が生じることがあります。

H27 年度 H28 年度 H29 年度 H30 年度 H31 年度 H32 年度 H33 年度 H34 年度 ,設計者選定 基本計画 施工者選定 基本設計 までの スケジュール 実施設計 仮設庁舎建設 新庁舎供用開始 新庁舎全面完成 仮設庁舎部 分の外構等 の整備 建設工事等 仮設庁舎あり 新庁舎 新庁舎全 解体、付带、 部供用開始 仮設庁舎なし 建設工事等 外構工事等 必要な整備 面完成

図表 6-1 整備スケジュール

※基本計画の検討段階の想定によるもので、事業の進捗状況等により変更が生じることがあります。

図表 6-2 工事ステップイメージ



7. 財政計画

(1) 概算事業費

具体的な事業費の算出については、基本設計、実施設計において積算することになりますので、最近の他市事例などを参考として、現段階での新庁舎建設事業の概算事業費を試算します。

庁舎本体建設工事費については、最近の他市における1㎡あたりの建設工事費に対し、一般社団法人建設物価調査会が公表している「建築指数」による時点修正を考慮した数値を掛け合わせ、平均値を算出した結果、1㎡あたりの平均建設工事単価は44.46万円であり、想定建設工事単価を45万円に設定します。

庁舎本体建設工事費 14,000㎡程度×45万円=約63億円

図表 7-1 他市新庁舎建設本体工事費単価

		A 市	В市	C 市	D市	Е市	F市	G市	Η市	平均値
入札時期		H25年8月	H25年9月	H25年8月	H26年11月	H26年6月	H27年1月	H25年9月	H27年2月	
	構造	SRU這、 一部S造、 布雷塔法	鉄筋鉄骨 コンクリート造、 一部鉄骨造	鉄骨造, 一部鉄骨鉄筋 コングリート造 及び鉄筋 コンクリート造, 免震構造	RC造 (一部S造・ 一部SRC造・ 一部SC造)	鉄筋 コンクリート造、 プレキャスト コンクリート造、 免震構造	一部鉄骨鉄筋	鉄筋 コンクリート造、 基礎免震構造	鉄骨造 (一部鉄筋 コンクリート造)	
新庁舎	階数	地上7階 地下1階	地上7階		地下1階 地上5階	地上6階 (4階+機械室 +展望階) 地下1階		地下1階 地上8階	地上7階 地下1階	
	建築面積	2780.05	3478.42	8506	3497.94	4303.42	4,387	2933.85	4369	
	延床面積	20403.89	20051.69	32506.4	12710	17339.11	17,958	14826.92	24911	
建設工事	費(千円/㎡)	7,174,533	7,095,600	13,982,392	5,756,400	8,412,996	7,674,031	6,200,000	12,124,860	8552601.5
建設単個	西(千円/㎡)	352	354	430	453	485	427	418	487	425.7
建築工事	発注時	103.1	106.8	102.2	113.6	118.6	108.2	105.5	110.2	
費デフレー	補正時(2015.7	113.5	113.5	110.8	114.8	122.9	108.8	112.3	111.4	
ター	補正後	387	376	466	458	503	430	445	492	444.6

図表 7-2 概算事業費

項目	仮設庁舎あり	仮設庁舎なし
庁舎本体建設工事費	約 63 億円	約 63 億円
仮設庁舎工事費	約 7.3 億円	
その他工事費 (解体、外構、駐車場)	約 9. 7 億円	約 9. 7 億円
その他経費 (移転費、備品購入費、設計監理費)	約8億円	約 7.5 億円
合 計	約 88 億円	約 80.2 億円

※基本計画の検討段階の想定による試算(消費税は現行の8%で試算)であり、今後、周辺整備の必要性や仮設庁舎を必要としない手法、設計者からの提案などにより変動が生じることがあります。

(2) 財源

新庁舎建設に係る財源としては、基本構想で示した従来の方針どおり、「庁舎等整備基金」 を計画的に積み立て、活用します(平成27年度末現在高 40億円)。

また、補助金については、航空自衛隊岐阜基地が近接するため、防衛省補助金を要望し、将来に大きな負担を残さないよう、一般財源の抑制に努めます。

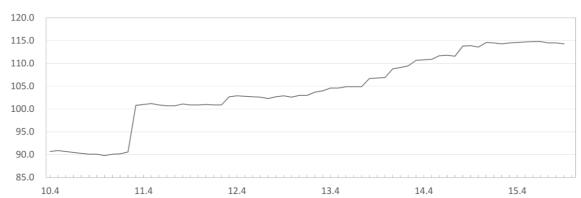
図表 7-3 庁舎等整備基金の積立計画 (参考)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
積 立 額 (積増予定額:10 億円)	40 億円	50 億円	60 億円	70 億円	80 億円

(参考) 建設コストについて

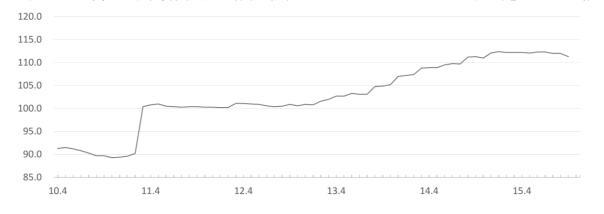
一般社団法人建設物価調査会が毎月発行している「建設物価指数月報」内の建築費指数にて、建設工事原価(建設や設備に関わる工事費と、現場にて発生する諸経費を合せたもの)の動向が示されており、以下の内容が確認できます。

・R C 造の事務所ビル建築の建設物価動向(標準指数)では、2011年4月以降みられた上昇傾向が、2014年12月頃に落ち着き、以後同じ水準で推移している。



図表 7-4 RC事務所の建設費物価動向(標準指数 平成 17 年平均を 100 とした場合)

・名古屋エリアにおけるRC造事務所ビルの動向においても標準指数と同様に推移している。



図表 7-5 RC 事務所の建設費物価動向(都市別指数 名古屋エリアにおける平成 17 年平均を 100 とした場合)

建設物価の動向をみると、2014年12月以降物価は高止まりしており、今後もしばらくはこの状態が続くと予測されます。2016年以降も中部圏ではリニア関連など大型建設工事が控えているため、物価下落は急激に起こりにくいと予測できます。

今後、中部地方の建設物価が標準指数の建設物価変動と同様に変化するとも限らないので、全国的な物価変動に合わせて、中部地方の物価動向を慎重にみていく必要があります。

8. 事業にあたっての留意事項

(1) 事業の緊急性

本庁舎は、防災拠点として、市民の安全・安心を守る大きな役割がありますが、現庁舎には耐震性に大きな問題があり、大規模地震により倒壊又は崩壊の危険性が高い状況です。 南海トラフ巨大地震はいつ発生しても不思議でない状況であることから、防災拠点となる新庁舎の早期完成を目指し、事業を進めていく必要があります。

(2) 事業費の縮減

今後の設計段階においては、費用対効果を十分に検討した上で、必要な機能を整備します。また、新庁舎建設によって、他の行政サービスや市の財政運営に大きく影響することがないように、事業費の縮減に努めていきます。

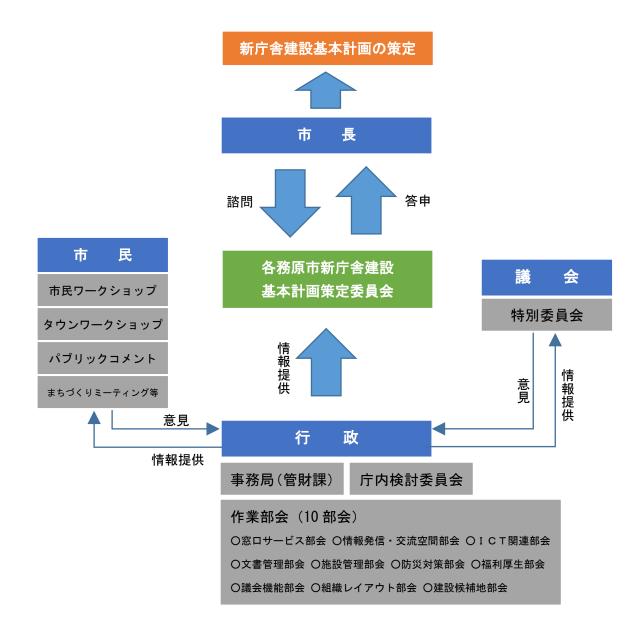
(3) 市民意見の反映

今後とも継続した丁寧な説明・情報発信を行うとともに、市民の皆さんの意見を集約・ 反映しながら、市民の皆さんとともに、誰にでも使いやすく親しまれる新庁舎とすること を目指します。

参考資料

1.	新庁舎建設基本計画の検討体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2.	各務原市新庁舎建設基本計画策定委員会 委員名簿 ・・・・・・	2
3.	各務原市新庁舎建設基本計画策定委員会 検討経過 ・・・・・・	3
4.	現庁舎敷地配置イメージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
5.	新庁舎の機能を考える市民ワークショップ報告書 ・・・・・・	7
6.	新庁舎タウンワークショップ実施結果 ・・・・・・・・・ ¹	1 3

1. 新庁舎建設基本計画の検討体制



2. 各務原市新庁舎建設基本計画策定委員会 委員名簿

(敬称略・順不同)

氏 名	役職等
杉戸 真太 (委員長)	岐阜大学理事兼副学長 (地震工学、地盤工学、都市地震防災)
福島 茂 (副委員長)	名城大学副学長兼都市情報学部教授 (都市計画、まちづくり)
神谷 和孝	東海学院大学健康福祉学部教授 (憲法、社会保障論)
二神 律子	中部学院大学経営学部教授 (経済学)
犬飼 利嗣	岐阜工業高等専門学校教授(建築学科長) (建築材料)
柳原 幸一	各務原商工会議所会頭
藤吉 里美	各務原商工会議所女性会副会長
小島 秀俊	各務原市都市計画審議会会長
熊崎・敏雄	各務原市自治会連合会会長
森 勇	各務原市民生委員・児童委員協議会会長
藤井 孝一	各務原市建築審査会会長 岐阜県建築士会会長
紙谷 清	各務原市社会福祉協議会会長
花田 澄子	市民委員
三浦 真由美	市民委員
柴山 拓治	市民委員

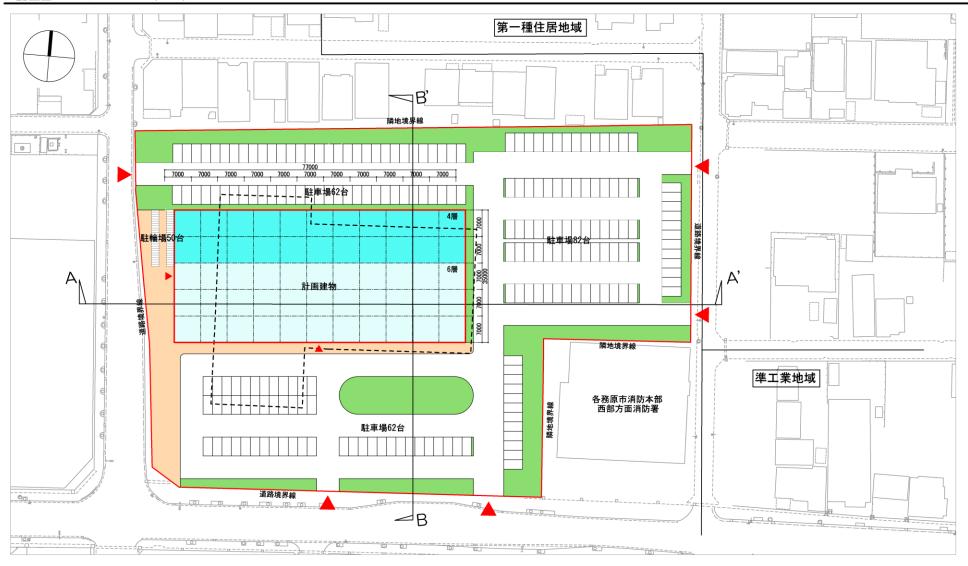
3. 各務原市新庁舎建設基本計画策定委員会 検討経過

開催日	協議事項
第1回(平成27年7月3日)	(1) 新庁舎建設基本計画策定の進め方について(2) 新庁舎建設事例の紹介(3) 新庁舎の建設候補地について
第2回(平成27年10月2日)	(1) 新庁舎の建設候補地について (2) 新庁舎の規模について
第3回(平成27年11月20日)	(1) 新庁舎の建設候補地について (2) 新庁舎の規模について
第4回(平成28年1月12日)	(1) 新庁舎の基本理念及び基本方針 (2) 新庁舎の機能について (3) 新庁舎の規模・建設候補地について
第5回(平成28年2月15日)	(1)事業手法等について(2)整備スケジュールについて(3)財政計画について
第6回(平成28年3月8日)	(1) 答申案について
答申(平成28年3月8日)	杉戸委員長から市長へ答申

4. 現庁舎敷地配置イメージ

※この配置は、参考程度のイメージ図です。配置案として確定したものではありません。

配置図 S=1/1000 (A3)



1. 現庁舎位置に建設する場合

用途地域:商業地域 敷地面積:12,737 ㎡

建築面積: 2,695 ㎡ (建ぺい率:21.2%)

延べ面積: 14,000 ㎡ (容積率: 109.9%)

階高:4m 階数:地上6階

接道緑化/率:142m/56.6%

(敷地接道延長×5/10=125.5m以上必要)

緑化面積/率: 2,068.6 ㎡/16.2% (敷地面積×1/10=1,273.7 ㎡以上必要)

駐車場 計 206 台 駐輪場 計 50 台

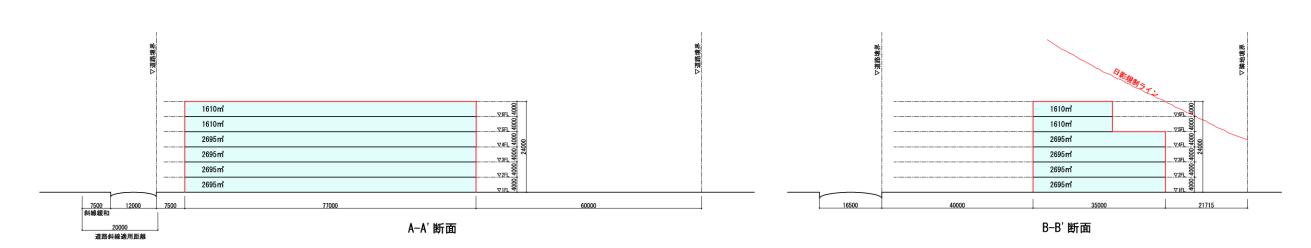
備考:①仮設庁舎建設・仮移転

②現庁舎解体

③新庁舎建設

:緑地

断面検討図 S=1/1000 (A3)



※この配置は、参考程度のイメージ図です。配置案として確定したものではありません。

配置図 S=1/1000 (A3)



2. 東側駐車場に建設する場合

用途地域:商業地域 敷地面積:12,737 ㎡

建築面積: 3,444 m (建ぺい率:27.0%) 延べ面積:13,950 m (容積率:109.5%)

階高:4m 階数:地上6階

接道緑化/率:220m/87.6%

(敷地接道延長×5/10=125.5m以上必要)

緑化面積/率: 1,690.5 ㎡/13.3% (敷地面積×1/10=1,273.7 ㎡以上必要)

駐車場 計 190 台 駐輪場 計 50 台

備考:①新庁舎建設(第1期)•一部仮移転

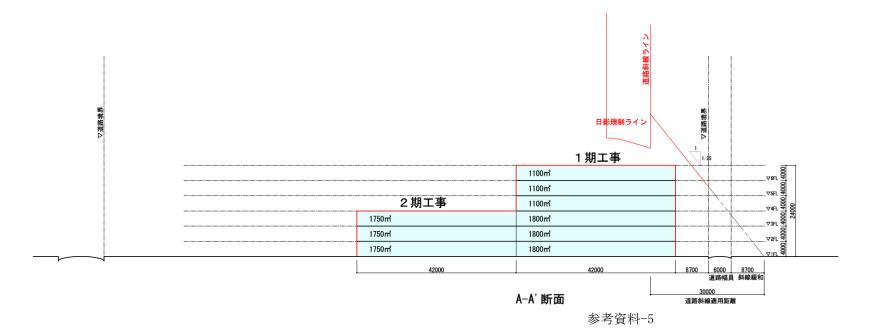
②現庁舎解体

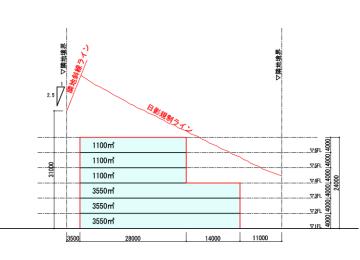
③新庁舎建設(第2期)

※周辺住民の生活環境への配慮が必要

:緑地

断面検討図 S=1/1000 (A3)

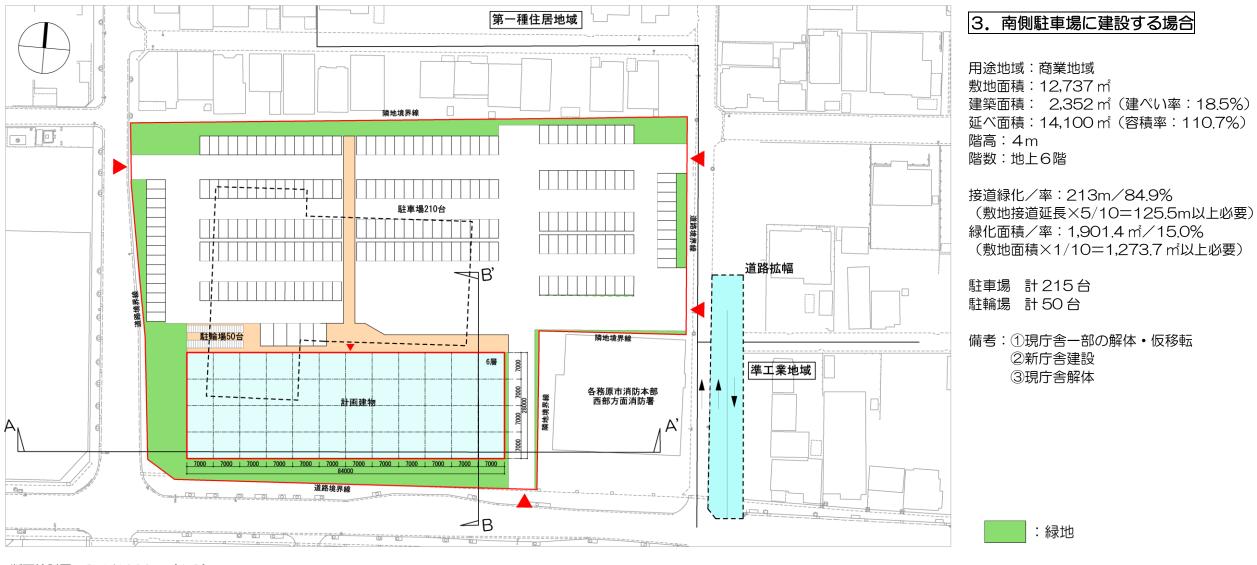




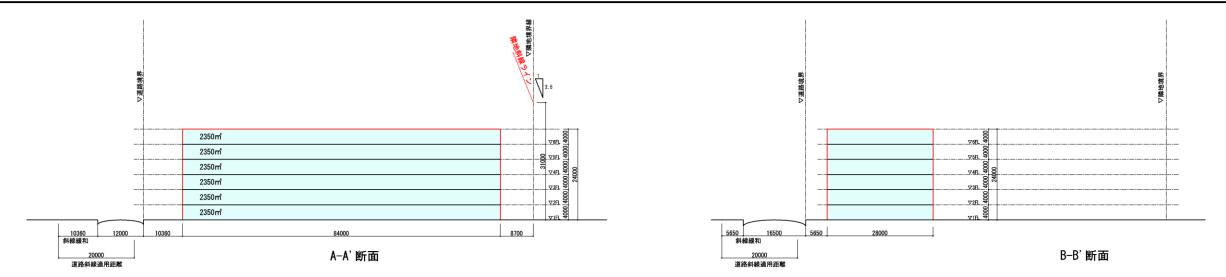
B-B'断面

※この配置は、参考程度のイメージ図です。配置案として確定したものではありません。

配置図 S=1/1000 (A3)



断面検討図 S=1/1000 (A3)



5. 新庁舎の機能を考える市民ワークショップ報告書

1. 市民ワークショップ開催結果概要

全5回にわたりグループ討議等を重ね、各グループにおいて参加したメンバーが様々な意見・提案を出し合い、新庁舎建設に向けて市民意見をまとめました。

【第1回】

日 時: 平成27年7月22日(土) 13:00~15:00

場 所:総合福祉会館 3階集会室

議題等:

- ●ワークショップについて
 - これまでの経過
 - ・ワークショップ開催の目的
 - ・ワークショップの進め方
 - 自己紹介
- ●グループ会議
 - ・新庁舎に期待すること



自己紹介とワークショップに望むことなどを参加者一人ずつ発表しました。



3班にわかれ、テーマにそって意見を付箋に記入し、班ごとに整理しました。

【第2回】

日 時: 平成27年8月3日(月)及び8月7日(金) 13:00~15:30

場 所:本庁舎4階大会議室(東)

議題等:

- ●現庁舎見学
- ●意見交換
 - ・現庁舎の課題



議場や議員室、屋上をはじめ、各フロア を視察しました。



見学後、現庁舎の課題や提案などについて意見交換をしました。

【第3回】

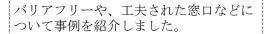
日 時:平成27年8月22日(土) 13:00~15:00

場 所:産業文化センター 2階第3会議室

議題等:

- ●事例紹介
- ●グループ討議
 - ・市民にやさしい庁舎を考えよう!
- ●発表







「わかりやすい案内」「市民にやさしい窓口」「ゆ とりある待合スペース」について意見交換及び意 見の整理をしました。

【第4回】

日 時:平成27年9月5日(土) 13:00~15:00

場 所:産業文化センター 2階第3会議室

議題等:

- ●事例紹介
- ●グループ討議
 - ・市民に安心・安全な庁舎を考えよう!
- ●発表



市民が安心して利用できるトイレや階段、 EVなどの事例、また地域の特性を活かし た庁舎の事例を紹介しました。



「市民が誇れる、訪れたくなる庁舎」「安心して 安全に利用できる庁舎」について意見交換及び意 見の整理をしました。

【第5回】

日 時:平成27年9月26日(土) 13:00~15:00

場 所:産業文化センター 2階第3会議室

議題等:

- ●前回のふりかえり
- ●グループ討議

・ 意見のまとめをしょう!

1班:市民が誇れる庁舎 2班:市民にやさしい庁舎 3班:市民に開かれた庁舎

- ●発表及び意見交換
- ●感想など



第5回市民ワークショップでは、3班に分かれ、第1回から第4回までに出された意見や提案、アイディアなどについて、それぞれテーマごとに意見の集約を行い、以下のとおり整理しました。

また、班ごとの発表の際に意見交換を行い、意見やアイディアの追加をしました。

第1回

・現庁舎の良いところと 良くないところ

第2回

- 現庁舎視察
- ・現庁舎の課題など

第3回

・市民にやさしい庁舎

第4回

・安心、安全な庁舎

第5回:意見のまとめ

2. 意見のまとめ

■市民が誇りに思い、魅力あふれる新庁舎

何があってもびくともしない日本一の庁舎

- \sim 市役所は各務原市民の中枢なので、どんな災害にもびくともせず、市役所としての機能が果たせるような庁舎に! \sim
- ◇災害時にも強い庁舎とする
- ◇市民の避難場所にせず、市役所としての機能を果たせるようにする
- ◆自家発電を取り入れてほしい
- ◆50年~100年先も残る庁舎
- ◇恒久的なデザインがよい

市民の意見をふまえ、明るく出入りしやすい庁舎の設計を!

- ~基本設計、実施設計の際には、市民の声を反映させる~
- ◆庁舎の設計、デザインはコンペなどで、必ず盛り込むべき提案等を踏まえて行う。その際は、市民の意見を取り入れる、聞くこと(子どもや若い人の意見も必要)
- ◆市民の意見を設計の条件とする。例えば、防音はしっかりと(コスト面の工夫も)、全体的に明るく、出入りしやすい庁舎など
- ◇防音はコスト面も考えて、できる限りの対応をしてほしい

各務原の雰囲気にあったゆとりある庁舎

- ~ 庁舎の周辺や執務室も含め、ゆとりのある空間とする~
- ◇樹木や花壇などを設け、ゆったりとした空間のある庁舎
- ◇花壇などは市民のボランティアなどで対応
- ◇特徴をだし、シンボル的な建物とする
- ◇各務原らしさといえば航空産業のイメージ
- ◇各務原の特産品を販売するスペースを設ける
- ◇自然の光や自然の風も通るような空間デザイン(例:昼休みも明るい方がよい)
- ◆LED を取り入れる
- ◆市の情報コーナー、カフェ(ちょっとよれる感じ)を設ける

機能を集約、そして利便性のある人的配置も!

- ~市民活用が多い機能は集約し、サービスの充実を図る~
- ◇公共機能の重要なものは集約されている庁舎がよい
- ◇関係する機能はまとまっているとよい
- ◇受付窓口のサービス向上を目指す
- ◆利便性のある人的配置
- ◆ A T M があると便利だが、庁舎内では面積をとるので外にまとめてあるとよいのではないか(休日でも利用可)
- →セキュリティーの面も踏まえて検討すべき
- ◇人感センサーは取り入れてほしいが、ある程度の明るさはあった方がよい

■市民にやさしい、利用者の立場を考えた新庁舎

バリアフリーに配慮したトイレ

- ~誰もが使いやすい、利用する人に配慮したトイレに~
- ◇可能であれば、各フロアに多目的トイレを配置する
- ◆ 男子トイレにも荷物置き場を取り入れてほしい
- ◇子ども用は着脱式の補助便座があればよいのではないか
- ◆フックの高さも使いやすい高さに(あまり高くないところに)
- ◇あまり高機能にはしない

安心、やさしい移動手段

- ~安心して使える階段、利用者にやさしいエレベーター、エスカレーターに~
- ◇階段の手すりは両側に高さを変えて2段に配置
- ◆1~2階にはエスカレーターもあると良い
- ◆エレベーターは外から見えるように(全部の階でなくても良い)
- ◆エレベーター、エスカレーターには音声案内をつける
- ◆エレベーターは車椅子の向きを変えないで良いものにしたい
- ◇高齢者だけではなく、乳幼児にもやさしいものにする

移動しやすい空間

- ~全体的にバリアフリーを徹底し、移動しやすい空間にする~
- ◇庁舎全体、車いすやベビーカーが通りやすい通路にする
- ◇床材なども配慮をする
- ◇これからのモデルになるように
- ◆荷物が多くなっても外に出しておくことがないよう、設計段階でしっかりと収納スペース を確保する

落ち着いて相談ができる窓口

- ~利用しやすく、プライバシーが確保された窓口~
- ◇相談がゆっくり落ち着いてできる場所を確保する
- ◆福祉関係の部署を1階中心に!
- ◇証明書等は支所等で対応できる
- ◆健康、子育て、高齢者の関係がこれから増えると予想されるので、この関係課をまとめて 配置する
- ◆税務関係は2階でも良い
- ◆市民利用の多い課を1階、2階に配置する
- ◇福祉関係の課のある階にはキッズスペースを設ける

わかりやすい案内

- ~誰にとっても分かりやすい案内のシステム~
- ◇文字の大きい、わかりやすい案内表示
- ◆視覚的にも分かりやすい、番号案内などの呼び出しシステム
- ◇総合案内は入口から見える場所に
- ◆案内の人の数を増やしてほしい。OBの活用も考えられる
- ◇どこから入ってきても見えるように配置する

■市民が訪れやすい、開かれた庁舎

市民も気軽に活用できる庁舎

- ~みんなが集まりやすく、使いやすい庁舎~
- ◆多くの人の目につく 1、2 階部分に、窓口だけでなく、会議室や展示として市民の方々が利用できるスペースを設ける
- ◇住民の方が申込みなどしなくても利用できる簡易的なスペースをもつ
- ◇いこいの場所としての庁舎

オープンなイメージの庁舎

- ~建物も運営もオープンに~
- ◆視覚的にさえぎるものを減らし、書類等を整理したクリアなイメージのもてる配置で統一する
- ◆運用面でオープンな庁舎
- ◆議員席と傍聴席を1つの平面に配置し、バリアフリーにも配慮した明るい議場
- ◇職員と市民のバリアをなくすような工夫をする(施設の配置や人的配置など)

訪れやすい、入りやすい庁舎

- ~親しみやすいスペースのある庁舎~
- ◆待合室に自販機を置く(喫茶室・コンビニ)などの少し休めるようなスペース、飲食のできるスペースを、1階、2階の低層部に配置する
- ◇コミュニティセンターとの棲み分け
- ◇居心地のよい待合スペースを設置する
- ◆自分の待順が分かるような(フードコートの機械など)

使い勝手のよい駐車場

- ~駐車場の利用の方向性も考える~
- ◆200 台駐車できるスペースを確保する
- ◇庁舎の近くに確保する
- ◇障がい者の方への配慮をしっかりとする
- ◆これからはドライバーが減っていくことも想定し、その時代にあった利用方法に転換できるよう設計段階で検討するのもよいのではないか

6. 新庁舎タウンワークショップ実施結果

- ■10月13日(火) 那加西福祉センター
- ■参加者6名:2班



1班

市民×企業×行政=市を盛り上げる拠点

- O 市民と行政がつながる場所
- O 市民、企業、行政が一緒に話せる場
- 市民・企業・行政のコラボスペース→文化創造・ 発信→シティセールス
- 〇 インキュベーション的な機能
- O まちづくりの拠点にする
- O 若い人が集まることに費用をかける
- O 行政と企業(個人)もつなげる事のできるコワー キングスペース
- O 家族で住みやすい地域であることを活かす
- O 市の拠点。図書館とか色々集まる場。そこに若 者も集まれるようだとよい
- 市民と行政をつなぐ情報発信機能スペース

分かりやすい案内・窓口機能

- 〇 インフォメーションの機能
- O 親切な案内・分かりやすい案内
- O 総合案内は正面にあってそこから広がる感じがよい
- O 案内のできるコンシェルジュのような人がいるとよい

2 班

利用しやすい設備

- O 現庁舎は身体障害者への対応が少ないのでは ないか
- O 来庁者アンケートなどで市役所に求められるサービスを、しっかりと精査する(調査結果は活かす)
- O 設備にはしっかり予算を使うべきだと思う →例えば、LED の照明を使用する等
- 〇 ランニングコストのかからない設備
- O 職員が最も利用するはず。職員の機能性が大切
- 〇 短時間の利用者が多い
- サインひとつとっても、進化の余地がある。

窓口の機能

O 窓口業務を集約化して、利便性を高める

駐車場・駐輪場

- O 1 台あたりのスペース確保
- O 現状は大きな車ははみ出してしまう
- O 駐車場も IT 化でスマートにする

50年後を想定した庁舎

- 〇 場所が大事である
- O 高齢者も住みやすいまちである
- O ①コストの件、②将来のまちづくりの観点での市 庁舎づくり
- O 仕事以外でも活動できる場所
- 〇 コスト面も重要
- O 情勢も人の考えも時代で変わるので、5 0 年 ごとに庁舎も変えていくのもあるのではないか
- O まち全体の50年後も考えた庁舎の建設
- O 50年経てば考えからも変わる。建て替えても いいだろう
- O 50年経てばコンクリートは風化する

市民の安心・安全を守る

- O 各務原市は災害の心配がない
- 〇 道路が弱い
- 〇 バリアフリーの充実

駐車場・駐輪場

- 〇 駐車場の問題
- グート式で、無人でよいのではないか

市民の安心・安全を守る

- の 有事にあの地域は大丈夫か。自衛隊から離れた 所はどうか
- O 有事の想定もし直したほうがよい
- O 現庁舎の耐震対策をやる方法は考えられないか

複合型・分散型(コンパクト・スリム)

- O 良い立地条件を生かして、他の機能を付加できないか
- O 複合ビル的(ドイツの例、商業施設と併設)な発想もあると思う
- O 基地と離すという点で場所を変えるのも一つの手。 都市の将来像も考えよう
- O 各務原は東西に長いので高齢者のために庁舎を 東西に分けてはどうか
- O 鵜沼からは遠い。2つに分けることも検討してよい のではないか
- 機能を分散すれば、コンパクトな庁舎にできる可能性もある→市役所でないとできないことに機能を絞る。
- O 住民票がコンビニ等で、さらに簡単に取れる様になるとよい
- 職員向けの、職員が自由に意見が言える庁舎ワークショップを実施した方がよい
- O 利用度の高い機能を集約していく方がよい

- ■10月14日(水) 那加福祉センター
- ■参加者5名:1班

利用しやすい設備

- 〇 バリアフリーに配慮する
- O 車いすがすれ違えるように通路は広く
- 初めての人にもわかりやすいように、入ってすぐに 案内表示がほしい
- の あまり用事がない。キッズスペースがあるとよいのではないか
- O キッズスペースはなくてよい。親が子どもを放置した際の事故など、責任問題が発生する

窓口機能

- 市民が利用する部分は、1~2階に集約が望ましい
- O 出来るだけ訪問する窓口は1箇所で事足りる ように
- O 分庁舎になっているものを集約してはどうか

交流機能

- O コミュニケーションのための CAFÉ があってもよいと 思う
- O 誰でも入れる・入りやすい食堂・CAFÉ があると よい
- 図 喫茶店、なくてもよいかもしれないが、コミュニケーションがとれる場所として、利用されるのであれば必要(市民だけでなく職員含め)
- O 地下食堂を今も利用している。外部の人にも PRして、利用を促してはどうか
- 役所に用事がなくても行きやすい→行く必要があるときに、より行きやすい
- O 若者が利用したくなるような仕掛けがあるとよい と思う

庁舎のデザイン等

- O 高層でない方が高齢者にとってよい
- O 円型でオープンな印象がよいと思う
- 円形の建物にして、オープンな感じを出せるとよい
- O 1 F、2 Fで広いつくりの見た目がよいと思う
- O 親しみやすさとは何か。分かりやすいことが大切

防災機能

O 通常の会議室を転用するのではなく、災害対応の特別室を常設する

その他

- O 今の庁舎にも満足している
- O 現在でも職員が笑顔で迎えてくれる
- O 役所の対応がとてもよくなったと思う
- O 途中で建設費が倍になったりしないように予算 はしっかり算定してほしい
- イベント・交流は他の場所でできる。そこまで考える必要はないのではないか
- O 交流等の付加価値は、他の施設でもできる
- O 現段階であれば、意見を反映することが十分可能である
- O 必要な機能を精査して、決める必要がある
- O 機能の精査は重要
- O 総合体育館の食堂がなくなって困っている
- O 新庁舎が他のエリアに出来れば、そこが活性化 することも考えられる
- O 機能重視でできるだけ安価におさめるとよい
- O 機能を増やすと人員も必要になると思う

■10月15日(木)稲羽コミュニティセンター

■参加者 10 名:2 班

1班 利用しやすい庁舎

- O 使いやすい庁舎
- O サービスセンターの機能が充実すれば、市役所 に行かなくて利便性が高くなる
- 「市の顔」として大通に近い方が便利。初めての 人にもアクセスがわかりやすい
- O 高齢者・障がい者への配慮、やさしい庁舎。バ リアフリーは当然、雨天時も駐車場に屋根があるとよい
- O 通路は車イスのすれ違いが可能なように

駐車場・駐輪場

- O 現庁舎では、雨天時に駐車場が不便でスペースも不足→地下駐も考えてほしい
- O 現状本庁舎 138 台。新庁舎はこれから検討していく。アンケート等でも同様に聴く



市民に親しまれる庁舎

- O 誇れる庁舎
- 建物の日本一を考えるのみでなく、利便性やサービスでの日本一を目指してほし
- 〇 「日本一」を新しい方向で目指してもよい
- O ソフトで日本一を目指す

相談機能

- 福祉関係は、特に1階に集中するように。(今は2階)分庁舎に行かずにすむようにする
- O 現状でも書類を支所で渡せば庁舎に届けてくれる。 ただし相談は庁舎に行く必要がある

機能分担について

- O 各地の施設機能の役割分担も考える
- O 色々な視点。可能性を考えてほしい
- O 市民にわかりやすく説明をしていくべき
- O 高齢化が進めば分散化していく方が利便性が 高いのではないか
- コストも考えながら、しっかりと市民の使いやすい 施設を目指す
- 機能と規模を考えながら検討をしていくべき
- O これからの時代を見据えて考える
- O これから必要な行政サービスを考えながら検討 していく

庁舎の規模及び配置

- O 総合的に他の施設も考えて市役所の規模を考えるべき
- O 小中学校は耐震をしている。何故庁舎はしないのか
- O 現状、市役所は4ヶ所に分かれている。産業文化センター、総合福祉会館、水道、これらは統合されるのか
- O 15 万人都市の庁舎をつくる中でのあり方も考えてほしい
- O 総合福祉会館への移転では、狭いのではない か
 - →土地取得も含めて考える
 - →場所も最終決定ではない
- O 現状の規模で考えるだけでなく、機能分散して 考えた方がよいのではないか
- O 機能を充分に考えて、本当に必要なものを考える
- O 都市の中での配置計画を総合的に考える

2 班

機能集約

- O 分庁舎ではなく、一カ所に集約してほしい
- O 高齢者にとって、分庁舎はつらい
- O はじめての人もすぐ分かる様なつくり
- O 学びの森の場合、踏切を高架にする等混雑緩 和する工夫が必要
- O 車イス利用者などにとって移動のロスが少ないように
- O 看板等のサインの文字を大きくしてほしい
- O バリアフリーに配慮
- O 学びの森庁舎を建設すると利便性がよい

市民に親しまれる庁舎のデザイン

- 〇 階段を明るく
- O 今の庁舎は暗い。明るい(白)イメージにして ほしい
- O 学びの森が新鮮でうれしい
- O 水の都各務原としてアピール
- O デザイン的によい庁舎設計
- O 多業に入ってもらって経済効果も
- O 市役所の中からも外からも入れる飲食店
- O 大手 CAFÉに入ってもらう。(もうかる工夫も)
- O 世界の住みやすい都市(人口 15 万人以 下)に選ばれた

駐車場・駐輪場

- O 駐輪場の位置をわかりやすく
- O 駐車場の出入りが不便。だから自動化等してほ しい
- 〇 24 時間利用できる駐車場
- O バスでも対応できる駐車場にする
- O 駐車場から入口までに屋根を設ける
- O 駐車場のマスを大きく設計する

交流機能

- O 世代間の交流が生まれる様な施設
- O 高齢者世代と若い世代が交流できる場所を "市役所"だからこそ設ける
- O これからの若い世代が納得する庁舎に

防災機能

O 現庁舎と消防本部が離れるのは安全面で考慮 しなくてはならない

その他

- O 市役所を利用する機会が少ない
- 高さ制限があるがどうするのか→高さを守り横に 広げる
- 条例の変更もありではないか(学びの森の高さ制限)
- O ヤマザキマザックさんの地下化を参考にしてほしい (空調等)
- O 財政計画をしっかりと考える
- O 学びの森の受けている補助は大丈夫か

■10月16日(金)川島ライフデザインセンター

■参加者 28 名: 4 班



1班 移動しやすい空間

- O 豪華なものではなく、実用本意にしてほしい
- O 直線的で利用しやすい空間設計に(円は分かりにくい)
- O 高齢者が訪れやすい建物に。上階への移動も 容易に

わかりやすい案内

- O ラインなどの案内も必要
- 案内する人がほしい(今もいる)、継続していく、機械のみに頼らない
- 案内は、ボランティアも活用→生きがい、楽しみ、誇りに感じる人もいる

駐車場・駐輪場

O 駐車場の台数確保と1台あたりのスペースに余裕を

議会施設

- O 明るいと市民にとってもわかりやすい
- O 会議室の利用も効率を考えて
- O 市民も使える会議室があるとよい
- O 議会の傍聴席をしっかりと確保(現状は少ない、狭い)
- O ネットの活用など、議会、傍聴も時代に応じて 最適なものを考える
- 市民が気軽に集まり、交流できる会議室が必要→狭い地域の集まりでなく、地域をまたいだ集まりに活用する

2 班

分かりやすい案内

- O トイレ等わかりやすいサイン
- O 外国人、身障者に対する対応が増えるので大 切に

駐車場・駐輪場

- O 今の車は大きい。駐車場がせまい
- 車はフリーにしてはどうか
- 駅が近いので、パーキングのフリーはどうか
- O 車の自動発見機は体に悪い

防災機能

- O 耐震性に関することが最優先事項
- O 防災に市民がどの程度守る能力があるのか
- O スペースが広すぎて、強度が弱くなってしまう
- 〇 防災が最も大切
- O ヘリポートがあった方がよい

窓口機能

- ウ サービス(市民)センターでかなりの用事は済ますことができる
- 透明性の高い庁舎、部署間の横のつながりも 大切に、市民のことも考えて→フロアのつくりも大事

市民の理解

- O 建設が市民の負担にならないように
- 100%の人が新庁舎建設に賛成ではないと思う
- O 免震は本当に信用できるのか。昔からの工法で もよいのではないか
- O 市民が本当に納得しているのか。きちんと説明 が必要
- O 説明をしてからでないと、意見を言うことも難しい
- 財政の見通しはどうか→基金を15億/年で積 み立てている。市民の負担にならないように検 討している
- O 基本は直線。曲線は高価になり、剛性も一般 的に低くなる
- 〇 地方公務員法第30条の理念を大切に
- ウ サービスセンターの機能を充実させれば、本庁舎をコンパクトにできる
- タイムスケジュールは、平成 27:計画→平成28:基本設計→建設
- つ 市民への説明が重要

交流機能

- O おかしを配る等親しみやすさをアピール
- O 展望レストランをつくるとよい
- 市役所レストランで集会できるような利用でもよい。
- O さらに、経済性を高めると付加価値が増すと思う

情報発信機能

○ 市の情報がひと目でわかるようにする

その他

- 3 現業務の中にニーズがあるのではないか。職員がまず考える
- O 空間が広すぎて無駄があると思う
- O 全国の事例を参考にしてはどうか
- O 現状の案内もとてもわかりやすくてよいと思う
- O 相談への窓口が分かりにくかったことがある
- O 川島役場でことたっていて、市役所はいかない

3 班

窓口機能

- O プライバシーの配慮を (席の間につい立を設けるなど)
- O イスの高さがもう少し高いとよい
- O 現在いる総合案内の人が優秀なので、ずっと引き継いでいってもらえるとよい

わかりやすい案内

- の 行きたいところにパッと行ける案内や表示があるとよい
- 〇 色等で工夫する

行政サービス機能

- O 一か所に機能を集約する
- 市役所機能を集約
- O 川島でも行政サービスを受けられると便利
- O 市役所までわざわざ行かなくても、川島でも行 政サービスが受けられるとよい
- いろいろな場所でも、いろいろな機能を利用できるように

駐車場・駐輪場

- O 交差点と駐車場出入口を離して作る
- O 右折して出るのは大変。左折して出る
- O 出入りしやすいルートの確保
- O 車止めを両方につけてほしい
- O 駐車スペースに余裕をもたせる
- O 地下に作ると良いのではないか
- 〇 屋根つきが便利
- 利用時間 2 時間では短いので、3 時間だと良いのではないか
- O 本当に利用する人が増える駐車場
- O 満車であることが多い。もっと利用しやすい駐車 場にする

アクセス

O 産業会館と地下道で行けて、さらに駅ともつながると便利

交流機能

- 区 居心地の良いサロンのようなカフェスペース(目かくしがあるとよい)
- O 2階にドトールが入るとよい
- O セルフのカフェスペース
- O 名古屋市役所のように結婚式のできる庁舎
- O シンボルになるような庁舎を

防災機能

- O 地震の時に避難した人を収容できる部屋がほ しい
- ヘ ヘリポートの必要性はあるのか(つくるには費用がかかるが)

防音

- 〇 完全防音
- O 防音のために締め切っているが、空調の工夫を 検討(自然の風が入るように風通しを良く)

階段など

- 〇 手すりをつける
- 〇 明るくする
- O 階段が明るいと利用する人が増えるのでは

その他

- O メンテナンスのしやすい庁舎(長く使うことを考えて)
- O ピカピカで真っ白い壁は年数が経つと汚れも目立つ。木等の自然の素材を使って落ち着けるスペースにする
- O 人の歩きやすい床材
- O あまり予算のかからない庁舎を(人口減少を見 込んで)
- O 喫煙所。中途半端に分煙するのではなく、完全 に分煙する
- O ATM の位置は、入口付近でない所に設置

4 班

分かりやすい案内

- O 窓口に行くと迷う(特に高齢者)わかりやすく するとよい
- 5 手続きによって、窓口をまわらなければならないので一か所で終わるように
- 見える化→窓口の混雑状況、案内など電光掲示板の設置
- O 職員が担当ごとで窓口に来る(来庁者は動かない)
- 分散しているため、2~3 回行〈必要がある。 一 緒にするとわかりやすい
- 〇 コンシェルジュの配置。横割りの対応

駐車場・駐輪場

- O 駐車場がせまい(すぐ入れない)
- O 庁舎分散。一ヶ所に集約。駐車場を広く

市民に親しまれ、行きやすい庁舎

- お茶のできるスペースがほしいが、スペースは大 丈夫か
- O 子連れの来庁者のための託児スペース(キッズ スペース)があると親しまれる
- O もっと気楽に行けたらよい
- O 市役所はサービス業、年中無休とすることも必要ではないか(土日閉庁)

防災機能

- 機能するのは職員。建物が丈夫でも職員が動けないとだめである。
- O 地震対策で建替えということだが、水害にも注意。 敷地の高さも考える必要がある
- O 各務原の地盤はどうか→台地で丈夫
- 耐震なのか免震なのか→免震の方が効果、導入事例は多い
- 耐震レベルはどのように考えているか→Is 値は 0.9 以上にする

■10月19日 (月) 鵜沼福祉センター

■参加者 17 名: 3 班

その他

- 建物の高さはどうなるのか→30m 程度(5~6 階)
- O ビックリするような庁舎
- O わざわざ市役所には行かない
- O 身の丈にあった庁舎、ソフトの充実の方が大切
- 外国人が多い。その方たちの意見は聞いている か→そういう機会も設けたい
- O 健康保険のことで適切なアドバイスをいただけた。職員の対応が大切



1班

窓口機能→ワンストップ

- O 多機能化を進めていく。訪れた人にとっておもし ろい施設にする
- O 駐車場で行き先を告げた時に、何階にあるかな どを教えてもらえるとよい
- 案内表示を大きくして、分かりやすく→参考: 県総合医療センター
- ワンストップサービスを充実させる。「提出はこの 場所」「受領はこの場所」の2箇所にできるだけ 集約して分かりやすくする
- O 端末を使える人はそちらで、そうでない人は窓口でなど、利用する人に応じたサービスを考える
- 可見を必要します。の 現在のように産業文化センターと分庁するのなら、渡り廊下などでつないでほしい。
- O たらい回しがないようにする
- O 「市民向け」「市民と業者」「業者向け」の3つの 分け方で窓口を考える

市民に親しまれる庁舎

- O 市民から親しまれるのは基本
- O ビアガーデン
- 記念写真プレゼント(フォトスタジオの設立)→撮影は職員で写真が趣味の人を活用する、あるいは、市民の持ち込み機材で行うなど
- 健康器具やアスレチックを置いて、雨でも遊べる →健康で医療費削減、器具は企業からモニターで提供してもらう(交渉する)
- 魅力ある本庁作り→市役所とは何かを考える
- O 各務原市にしかない、日本のどこにもない市役 所を目指す
- 〇 温泉もあるといい
- O 市民の市役所、発想を変えよう

市民の安心・安全を守る

- O 職員の資質が上がる環境がつくられる市役所に する
- O 公共工事をはじめ、効率よく、事業をすすめて ほしい
- O 本庁の一番のキーは危機管理。日常業務はサ ービスセンターで担うことが可能
- O ヘリポート、災害対応も考えて

庁舎のあり方

- ひ サービスセンターの機能が充実すれば、本庁は 小さくてもよくなると思う →ネットで繋いで、核として本庁舎、ハブとしてサ ービスセンターがある、という考え方もある
- 〇 日常サービスはサービスセンターにまかせる
- O サービス向上。市役所の基本はサービス。ハード でない
- O アクセスの面で鉄道は外部からくる人には便利。ただ、一般市民にはあまりメリットがない
- O 候補地は中心部になっている。駅にこだわらず 総合的に交通の便がよければよい
- 〇 細かい部分もしっかりと考えながら進めてほしい
- コンセプトは何か。何が一番メインなのか
- O もっと多世代の意見を伺いたい
- O 文化施設の上に市役所があってもよい
- 自分の勤める企業でも LAN を推進したが、市 役所にも 12 年前に LAN を提案した
- O 現状、サービスセンターは市内に 6 ヶ所。ハコは ある。あとは中身
- O 本庁では行政施策をつないでいく機能を充実させる
- O 行政に必要な機能も空き家で済むなら、その活 用も考えられる
- 建設予定階数は→未定
- O 新しい意見を募るだけでなく、過去の「市民の 声」を拾ってはどうか
- びこの地域から見ても平等な場所がよいのではないか
- O 本庁でしかできないサービスを考えよう (例:ランチが旨い・安い、本庁の魅力づくり)
- 〇 職員の多能化教育も進める

2班 建設場所について

- O 官庁関係が集合している配置がよい
- O 学びの森がよいと思う
- O 学びの森だと使いにくくなると思う
- O 中心市街地ではなくて、山側等に土地を求め てはどうか
- O 一つの庁舎で全て事足りるようにしてほしい
- O 広い場所が使いやすいと思う
- O 交通の便がよいところがよいと思う
- O 市民公園の場合、駐車場はつくれるか
- O 市民が使いやすいのが最も大切である
- O 今後の業務増を見越して、大きな場所が必要

利用しやすい設備

- O トイレも分かりにくいのでわかりやすく、階段の近くに
- 0 きれいなトイレ
- 〇 階段が暗いから明るく
- 〇 エレベーターが遅い

分かりやすい案内

- 行くのは数年に一回なのでわかりやすくしてほしい
- O 案内係がいるとわかりやすくてよいと思う
- 〇 グループ (課)分けを工夫する必要
- O 出来るだけ早くやってほしい

3班 利用しやすい設備

- 車いす・スロープの常設
- O 階段の暗さが気になる
- トイレにウォシュレット便座クリーナーの常設、身 障者を意識した設備
- O 庁舎の食事、飲み物は、まずいと感じる。市民 も利用できる場所として利用できる明るい食堂 にしてほしい

窓口機能

- O 入所児の子どもの受け入れの場所の確保はどう するのか(毎月1日)
- O 他市の職員からの問合せをたらいまわしされた が、今後そういった場合の対処方法を検討
- O 申請書の受付

分かりやすい案内

- O 目的部署へ床に線を引く(線ごとに色分け)
- 〇 案内表示に外国語も必要(外国 2%在住)
- O 各階ごとに案内表示を設ける

駐車場・駐輪場

- O 公園のように利用する
- O 土日には市民に開放できる駐車場を提案する
- O 新庁舎には、駐車台数の余裕をもって広さを検 討してほしい
- 〇 台数を増やす

交流機能

- O 春日井市の展望レストランのような市民が使い たいレストラン等
- O 使いやすい食堂。安くてボリュームあり
- O 市長室は親しみやすい場所に
- O 図書館の分館が入っている

デザイン

- O 他の市にも誇れるようなデザイン
- O デザイン重視しすぎて欠陥のないように

防災機能

O 防災の拠点は低層階がよいと思う

その他

- O 予算のことがやはり気がかりである
- O 食堂利用の場合はどうすればよいか
- 〇 土日も開いている
- O 街路樹も本当に必要かどうか考える必要がある
- ソフトの面もしっかり考えてほしい
- 〇 学びの森の樹木を切ってほしくない

駐車場・駐輪場

- O 駐車場が少ないので増やしてほしい
- O 駐車場がせまいので、広くつくってほしい

交流機能

- O 地下にある食堂を最上階に設置するのはどうか。市民に眺めのよい場所の提供を考える
- O 市の PR ビデオコーナーがほしい
- O 各種お店を出してほしい
- ロビーに自由に使用できるパソコンを設置し、市のホームページを常時にだれでも見られるように取扱マニュアルを常備

防災機能

- 建物の屋上に避難場所を考える
- 〇 避難場所には外から行ける階段を利用
- O ノルウェー オペラ座は、防災機能として非常に 参考になる
- 防災、災害時の給水が必要

セキュリティ

- O 職員の教育を充分に行う
- O 個人情報漏れのないこと
- O 建物のセキュリティだけでなく、情報のセキュリティ を第3者が検証する定期的な委員会の設置

- ■10月20日(火) 鵜沼東福祉センター
- ■参加者4名:1班



分かりやすい表示

O 庁内の案内も多言語化が必要

移動しやすい空間

- 近い階には階段を使ってもらえるよう、エレベーターの横に設置するなど使いやすくする
- O 階段・非常階段は建物の中央で、誰でもわかる位置に設ける

駐車場・駐輪場

- 〇 平面駐車場
- O 駐車場のスペースも確保(一台あたり広く)
- O 犬山のヨーカドーのような駐車場は使いにくい
- O 駐車場の出入りを安全に(信号など設置)
- O 出入口は逆光に配慮
- O 地下や複層は不便(カーブや照明等)

防災機能

- O 防災無線は大雨の時など聞こえない。機能する のか心配である
- ツイッターの活用も考えよう(市のアカウントはある)
- O 災害時には市の HP を災害専用のレイアウトに し、多言語にも対応
- O 市民が災害時でも安心を感じられる市役所で あってほしい
- 災害時だけでなく、有事の際のことも念頭におく
- 災害対策本部室は普段はどうしているのか →会議室にも使っているケースが多い
- O HP のみに頼らない。災害時の対応も必要
- O 雨水等を屋上に貯める
- O 木曽川の水を災害時等に利用する
- O トイレを流すための水の確保(災害時)
- O 緊急時のみ自家発電は難しいのではないか。 日常から自家発電を基本に考える
- O インフラ (電気・上下水道) をしっかり整備

情報発信機能

- O 市政情報の発信だけなら、そういう場所は不要
- O 情報発信スペースは不要。用件があって来ている。 暇で来ているわけではない
- O デジタル情報に対応できない人のことも考える
- O 広報が一番身近な市政情報を知る手である

市民に親しまれる庁舎

- O 職員の資質の問題でもある
- 食べ物だけでは親しみは生まれない(当たり前)
- 食堂・喫茶を最上階に設け、低価格ランチを名物にする→市民が集まる
- O 各務原の紹介ができるようなギャラリー
- O 親しまれる最大の要因は「人」である。まず笑顔 が重要
- O 桜並木、屋上庭園があるとよい
- O 屋上にいこいの空間(庭園など)があるとよい

議会施設

- O 市議会中継の解説をしてほしい
- O 議会の議場は市民とフラットな意識を持てるよう なイメージに。赤じゅうたんはよくない
- O 市議会にも興味がある
- ひ 誰もが思った時にふらっと傍聴できる(したくなる) 市議会
- O 入りやすい議会に。議員の意識も向上する

ワークショップについて

- O 新庁舎に関して、何も知らなかった。参加者も 少ない
- O こうした集まりも声のかけ方で参加者は増えると 思う
- O 外から最近来た人の意見も聞くことも大事

費用について

- O 費用の問題が最も重要。オリンピック競技場のような問題が出てくるかもしれない
- O 費用対効果をしっかりと考慮してほしい
- O 産文センターとツインタワー化してはどうか

その他

- O 職員は制服を着てほしい。 気持ちが引き締まる
- O 制服を着てはどうか

- ■10月21日(水)蘇原コミュニティセンター
- ■参加者 69 名: 6 班

1班

誰もが利用しやすい庁舎

- O きめ細かくすれば規模は大きくなる。スリム化が 必要になる
- O サービスセンターの機能を充実させる
- O 今は窓口でプライバシーが守られていない。守られるようにする
- O 窓口を統合していく。さまざまな機能の窓口は 同一で職員が替わって対応していく
- O 各地区でサービス対応できるのが本来のあり方 だと思う
- O 高齢化が進めば各地区にあるのがよい
- O 今までの市役所は信号が不便だった。学びの森 だと踏切があるので高架にしてはどうか

駐車場・駐輪場

○ 職員の駐車スペースはどのぐらいか→現在の駐車場は、職員は使っていない

防災機能

- O 防災拠点として、ヘリポートの設置も必要では ないか
- O 経済・防災も考えて、ソーラー発電も導入する
- つ 学びの森、市民公園がよい。災害時に大きな 土地と隣接していて利便性が高い
- O 防災拠点として、防災センターを設けている市 町もある。検討してはどうか
- 大きいものを作っても行く用事はない。小さくて 丈夫なものをいくつか作る方がよい
- O 備蓄(災害時)は各避難所にある。広く備蓄 するために庁舎にも設けてはどうか

市民に親しまれる庁舎

O 現状、1 階は事務スペースの雰囲気。サロン風 にしてもらうと入りやすい

新庁舎の建設に関して

- O 社会の変わり方、考え方の変化が激しい。それ に対応していかなければいけない
- O 新しい庁舎は、後世に誇れるものに
- O 建設場所確保のために、等価交換で用地取得してはどうか
- O 福祉会館では狭すぎる。候補地は実質 3 ヶ所ではないか
- O 現庁舎の設計図・完成図と比べ、現在、どこが どう欠陥・老朽しているか調査したのか。建設当 時の現場監督は、80、100 年でも耐用できる 自信があると言った。100 億では、150 億にも なるのでは。当時を知る者として言いたい
- O 今後、高齢化もピークを迎え、人口は減ってい く。それも見越した計画づくりをすべき
- なぜこの段階で意見を聞くのか→ハード・ソフト に関して「どうしてほしいか」をお聞きしたい
- 市民会館周辺に大規模民有地があるが、そこは可能か→公共交通、施設との関連性も考慮する必要がある
- O 支所機能を考えながら市の組織も合理化して いく
- O 本庁では、中央病院と小規模病院の連携のような感じで、支所で対応できないもののみに絞る

2班

建設場所について

- O 学びの森は、道路上難しい。現庁舎の場所で
- O 現庁舎の場所がよいと思う
- O 学びの森は水害の可能性がある
- O 踏切から立体交差に変更してほしい
- O 機能を集約して一ヵ所の庁舎で事足りるように
- 今後の人口減少を考慮し、規模を考える

窓口機能

- O ドライブスルーで窓口業務を行う
- O わかりやすいサイン等をさらに充実させる
- O 窓口を一ヶ所で全てできるように
- O 現在の市役所の対応はよい

駐車場・駐輪場

- O 駐車場が少なくてせまい
- 〇 駐車スペース増のため、半地下式等
- O ドライバーの待機場所がほしい

交流機能

- O 美術館の中にある市役所 (コンセプト)
- O キッズスペース、カフェスペース、発表の場、交流 のためのスペース
- O 子どもの一時あずかり所があるとよい
- O 絵画等を展示したりして親しみ感を増す
- O 明るいイメージで親しみやすい場所
- O 世代間の交流が活発になるよう
- O 市役所でお昼が食べられるように
- O 子どもや高齢者が喜ぶようなメニュー、タニタ食 堂のイメージ

防災機能

- O 災害時のために救急スペース
- O 発電機等の災害機能は地下につくらない
- 〇 災害時に道路の確保、ヘリポートの整備

3班

移動しやすい空間

- 〇 バリアフリーの充実
- O エスカレーターがあるとよい
- 〇 福祉で住みよい町づくり
- O 手続きをスムーズに
- O 手続き等がスムーズにできるようなシステム
- O 各階に多目的トイレを設ける
- O 明るい市舎に

分かりやすい案内・窓口

- O 案内等の文字は見やすく大きく
- O 案内表示等看板の「カタカナ」表示は極力少な くしてほしい
- O 聴覚障がい者にもわかるように窓口などの呼び 出しを工夫する
- O 訪れやすい(表示等が分かりやすい)
- O 手元で自分の番号がわかるシステム

交流の場

- O ミニコンサートができる広場 (スペース)
- 多目的スペースがほしい
- O 老若男女の人達が集える庁舎
- O 近隣の市の物産展などがあるとよい
- O 広い喫茶店や飲食スペースがあるとよい
- O 休憩できるカフェ、喫茶店を大きく設けてほしい
- O 喫茶店を最上階に開設してほしい
- O 一般市民の知らない行政ならではのお得情報 発信スペースがあるとよい
- O 待合室に時間つぶしのできる簡易図書館みたいなのがあるとよい

見守り付きのキッズスペース

- O 小さい子ども預かってもらえる
- O 子供連れの訪問者が増えてくるものと思います。思い切って広く大きく設置してほしい

市民の安心・安全を守る庁舎

- O 防災の中心となるように警察・消防など連携が とりやすい場所に配置する
- O 新庁舎の屋上部にヘリポートを新設すると良い

広くて利用しやすい駐車場

- O 駐車場の広い庁舎
- O 駐車スペースを広くしてほしい
- 〇 駐車場が広い
- O 充分な駐車スペースの確保
- O 立体駐車場にして各階に入れるような感じ
- O 駐車場を広く設置してほしい
- O 駐車場が広い
- O 駐車場は庁舎に近いところがよい
- O 駐車場は広く、大型トラブルならないようにする
- O 道路からの導線もしっかり考える

全体的なデザイン

- O 庁舎はセンスあるデザインで
- 〇 職員の配置も工夫が必要
- O 新庁舎について建築費の上昇の不安はどうか
- 0 近代的なつくり
- O もう少し敷地を広くとれないか

その他

- O 行政と市民が近づけるようなしくみづくり
- O 来庁者ポイントカード等おもしろいのでは
- 〇 手続きがドライブするーできたらよい
- O 市長室は1階で周りからよくみえるところ
- O ATM は 1 台でいろいろな金融機関が利用できるものがよい
- O 土日も対応してもらえる
- O コピーコーナーはほしい
- O 夜や土日利用しやすい庁舎

4班

新庁舎建設場所、機能配置など

- 〇 福祉課は1階に設ける
- ロ セントレアは使いやすい、成田はわかりにくい (案内)
- 庁舎場所は、市民公園駐車場に設ける場合、2 階に駐車場、1 階に窓口と福祉会館機能、1 階・3 階は市民利用大の窓口にする
- 〇 福祉会館跡地は駐車場へ
- O 現庁舎跡地は消防庁舎の建て替えとする
- O 建物の構造を木造にする。視覚的にやさしい
- 〇 階段はできるだけ少なくする
- 〇 道路拡張を(設置周辺)
- 〇 取り付道路

防災機能

- 〇 ヘリポート設置
- O 災害に強い街 広域エリアへのサポート
- O 災害に強い街 けが人用の仮ベッド設置可能
- O 災害に強い街 自衛隊との強い絆(道路、コミュニケーション)
- O 災害に強い街 食べ物(炊き出しできる機能、 産文とタイアップも可)
- 〇 災害に強い街 水源確保(井戸)
- 〇 各務原市が助ける他市町村
- 〇 福祉会議機能の強化
- O 有事の際に機能を失わない

窓口機能

- O 案内を見やすく、親切な受付対応を望む
- 〇 土日の受付は無理
- O 土日も営業、夜間も窓口があいているとよい
- O たらいまわしにされない
- O 窓口事務は、高齢化が進む中、使いやすいよう にする
- O 相談しやすい窓口づくり
- O 365 日営業 (機能を絞って)
- O 窓口機能の充実

利用しやすい設備

- 〇 エレベーターの増設
- O トイレにウォシュレットがほしい
- 〇 おしゃれな食堂
- O 木質バイオマスの利用、エネルギーの自給
- O 薪ストーブ、エネルギーの自給
- つ 市の業務機関を全て新庁舎に統合→賛成意見多数

駐車場・駐輪場

- 〇 充実した駐車場
- O 駐車場の台数が多い方がよい
- 〇 駐車場の確保
- 〇 駐車場の24時間開放
- O 本市は東西と長いため、駐車場が広いとよい
- O 立体駐車場の設置
- O 市役所近くがよく渋滞するのはやめてほしい
- O アピタの駐車場が売り場と駐車場が行きやすい

その他

- 〇 安価な建物
- O 宮殿のような庁舎
- 〇 趣のある外観
- O 仕切りのない広い事務所
- O 市庁舎の建て替えは最優先か(橋、老朽化 建物あり)
- 0 合理的庁舎
- O シンプルな庁舎

5班

誰もが利用しやすい庁舎

- O 現在の庁舎の中は狭すぎる
- 〇 安らげるスペースがほしい
- O 外国の方への対応をよくすべき (通訳の人の採用など)
- O 駐車台数が少ない、駐車場は広く
- O 休日・夜間に使用しやすくなるとよい
- 〇 夜間・休日の窓口を開設
- O 手続きが一ヶ所で完結する窓口がほしい
- O ワンストップ窓口
- 様々な大学や団体と提携して事業を行う(託児)

市民に親しまれる庁舎

- O 対話のある市役所を目指すべき
- いろいろな人が訪れるように、イベント等開催できるスペース
- O 市の歴史や文化を紹介するスペースを設ける
- O 公園等の人の集まる場所の近くに建替えすると よい

市民の安心・安全を守る庁舎

- O 水害対策は万全にすること
- O 防災貯蓄倉庫(大きいもの)が必要
- O 防災機能に特化した庁舎機能を持った建物に する
- O 電力・水の確保を充分にすること
- O 災害時の利用できるヘリポートを設置

建設場所など

- O 学びの森では道路が狭い
- O 集約して建てる
- O 市の将来ビジョンを市民にわかりやすくアピール すべき
- O 産文と本庁舎は近い方がよい
- O 消防署の近くに建替すべき
- O 表通りに面した場所に建替する
- O 市民公園に建て替えする
- O 市民会館周辺に建替えしてほしい
- O 立体駐車場の屋根にソーラーパネル
- O 少子高齢化を考えると大きな庁舎は必要では ない

6班 誰もが使いやすい

- O バリアフリー化(特に玄関)
- 〇 使いやすいトイレ
- 〇 子どもの遊びスペースの確保
- O 携帯・スマホ等の充電するところを設置
- O 内装の木質化、木のぬくもり

誰でも行きやすい

- O 開放的な受付であってほしい
- 駅に近い
- O 交通弱者にも来やすい
- O 自分の行きたいと思っていたところがすぐわかる
- 〇 行動の拡大を図る(周辺)

窓口機能

- O 市行政会機能をまとめた庁舎
- 〇 待たなくてもよい窓口
- O 建物一つに全て集約してほしい
- O 待合の時のゆらぎの所
- O たらいまわしにされないよう、職員の対応の向上
- O 支所を充実させる

駐車場

- 〇 駐車スペースの拡大
- 〇 駐車場広く
- O 駐車場ゆったりと

開かれた庁舎

O 市長室のガラス化

交流機能

- O 市民の対話ができるスペース希望
- O スタバ

市の PR

- 〇 ロボットの利用
- 〇 名物のアピール(キムチ等)
- ロ アンテナショップ等

防災機能

- O 非常口を増やしてほしい(わかりやすく)
- の 新エネルギーによる自家発電施設(バイオマスとか)
- O 防災拠点となる。災害に強い
- 災害時の避難所スペースの確保。例えば地下 室など、広いロビー
- 本庁舎は防災機能を充実させる

省エネ

- O 屋上を緑化、発電などに利用
- O 省エネに対応した照明

その他

- 現庁舎は築何年か→42年
- O 新庁舎は、蘇原瑞穂町、蘇原吉野町がよい
- 〇 今何で建て替えなのかが疑問である
- ■10月22日(木)陵南福祉センター
- ■参加者8名:2班

1班

利用しやすい駐車場

- O 庁舎への導線をしっかりと入りやすく、安全に
- 駐車場の台数確保
- O いろいろな人が利用する施設だから安全に配慮
- 〇 利用者の交通用具は88%が自家用車
- O 車の駐車場に入れないことがある。若ければ離れた駐車場に停めてもよいが、高齢者や障がい者には厳しい

公共交通

の ふれあいバスが各地域から来てもらえるよう増や してはどうか(市役所の乗り入れ)

窓口機能

- O 現状、トイレがフロアに 1 ヶ所、 奥まったところにし かない。 分かりやすく、 広くする
- キッズスペースで託児があると安心して窓口に行くことができる。ただし利用できるのは役所利用者のみ

防災機能

- O 防災に関し、対策本部が市で独自だけではな く、綿密な連携を県・周辺・関係機関ととる
- O しっかりと機能できる災害本部
- O 自家発電システム太陽光も(災害時)ソーラーで売電できれば
- O 耐震は専門家にしっかりと任せたい
- O 災害時にはどうしても市役所に人が集まる
- O 1 階にはオープンスペースを増やす。 いざ! という 時に避難できる
- 〇 何もない空間が必要

情報発信機能

- O 各務原市は広報を月 2 回、最近少なくなる 中、しっかりやっていると思う
- O 市民も文句を言うだけでなく、進んで情報を得る必要がある
- の 例えば「あさけんポスト」のような取り組みも、もっと市民に伝えてほしい

利用しやすい機能配置

- O トイレは窓口の近くにある方が使いやすい
- O 喫煙空間を、屋外でもよいので設置してほしい。普段来ない人は、知らずに吸ってポイ捨ての可能性もある
- O 喫煙は無秩序になるよりはコントロールした方が よい

交流機能

- O 今、 喫茶店が入りにくい。 オープンな雰囲気のカフェ
- O キッズスペースに保育士の配置をすれば何かあった時に素早い対応が可能になる
- O 上層部にも市民が行けるスペースがあれば広く 利用できる
- O カフェの一角にキッズスペースがあってもよい
- 待ち時間に気楽に入れるカフェがあるとよい。交流の場になってもよい

2班 窓□機能

- O 機能を集約して、1つの建物に
- O 支所で窓口業務を全てできるように
- O 今の市役所は分かれているから不便
- O 中央中学校のまわりなら自由度が高いと思う

利用しやすい設備

- O ホールがせまい
- O バリアフリーの観点は、今の庁舎はとても弱い
- O 駐車場が狭い

市民に親しまれる庁舎

- O 壁画が好きなので残るとよい
- O 市民の作品をかざれるようなスペースがあるとよ

議会機能

○ 議場は市民に来てもらえる施設に。傍聴するといろいろな情報もよくわかる

その他

- O 学びの森だと、土地は大きいが敷地に勾配があり、バリアフリーには厳しいと思う
- O 現庁舎の1階の吹き抜けは当時としては珍しい
- 動きが急ぎすぎているような気がする。建設の是 非をもっと問いかけてほしかった
- O 建設の是非を問う住民投票をしてほしい
- 図 建て替えに関して、知っている人も少ないのではないか
- O 市民が納得するような説明が必要

建設地

- O 東の地域は市役所に行くのに不便
- O 人口のバランスからすると那加でなくてもよい

市民の安心・安全を守る庁舎

- 〇 学校等の優先順位が高いのが当然(耐震補 強)
- O 今の庁舎は、建築士の観点から大きな地震で 倒れる
- O 安全第一のため、建て替えが必要
- 〇 省エネ等の観点からも建て替えが必要

その他

- O 新庁舎の経緯についてが知りたい。今日はその ために来た
- O 現庁舎がこれほど早く建て替えが必要なのか
- O 見た目からは建て替えが必要とは思えない
- O 情報が足りない

タウンワークショップの様子

